

JICA 海外協力隊OV (OB・OG) 向け [CROSSROADS]

# クロスロード

2021

別冊



特集

## 巻き込み力

仲間を増やして社会課題に挑むOVたち

OV会代表座談会

長く続く会にするには

懐かし!お宝協力隊グッズ

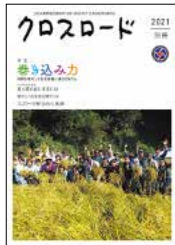
スポーツがひらく未来



# クロスロード

## 2021

### Contents



#### 表紙によせて

2008年から行う「稲作プロジェクト」の写真です。耕作放棄地を活用し、この年はJICA筑波で稲作を学んでいた東アフリカの研修生や、県内の連携大学の学生などがお米の苗の手植えと稲の手刈りを行いました。約1300㎡で約10俵(約600kg)の米ができます。日本古来の米作りを体験し、世代間交流ができる場ですが、育てることの難しさを知り、食べ物のありがたみを知ってもらいたいという願いも込めています。

NPO法人自然塾寺子屋理事長・矢島亮一さん(パナマ/村落開発普及員/1998年度3次隊・群馬県出身) ※写真右奥

【凡例】 JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

| 氏名     | 派遣国 | 職種   | 隊次        |
|--------|-----|------|-----------|
| 国際協子さん | ケニア | 環境教育 | 2019年度1次隊 |

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

※本誌記事内の「OV」は、「Old Volunteer」の略で、OB・OG両方を指します。

『クロスロード』は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための情報などを提供する通常号を年に10冊発行しています。このほか年に1冊ずつ、帰国隊員に向けた情報を提供するOB・OG別冊、これからJICA海外協力隊を目指す方に向けた情報を提供する応募動員別冊を発行しています。

|   |   |
|---|---|
| 3 | Message<br>(JICA青年海外協力隊事務局長からOB・OGの皆様へ)   |
| 4 | コロナ禍のJICA海外協力隊へのJICAの対応   |
| 6 | JICA海外協力隊派遣現況   |
|   | 特 集   |
| 7 | 「巻き込み力」<br>仲間を増やして社会課題に挑むOVたち<br>共生社会づくり<br>河合憲太さん(インドネシア/水球/1997年度1次隊)<br>ソーシャルビジネス<br>番匠麻樹さん(旧姓 山田)(フィリピン/村落開発普及員/2010年度2次隊)<br>在住外国人への医療支援<br>村松紀子さん(パラグアイ/野菜/1988年度1次隊)<br>在住外国人への日本語支援<br>神谷 樹さん(日系・ブラジル/日本語教育/2019年度1次隊)<br>高齢化社会<br>黒須久美子さん(旧姓 伊藤)(ニカラグア/看護師/1996年度3次隊)<br>獣害対策<br>岩井雪乃さん(タンザニア/理数科教師/1993年度1次隊)<br>国内災害ボランティアに関心のある皆様へ<br>OV会代表座談会<br>18 長く続く会にするには?<br>21 進路開拓インフォメーション&各種団体情報<br>28 Award Winners in 2021<br>30 JOCV BOOKS 協力隊経験者の著書<br>31 JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ&奥付<br>32 懐かし! お宝隊員グッズ<br>34 スポーツがひらく未来 一選手とのキズナー |

## JICA 海外協力隊OB・OGの皆様へ

JICA 海外協力隊としての活動を終えられたあとも、日頃より JICA ボランティア事業にお力添えをいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、隊員が一斉に帰国してから約1年半が経過いたしました。昨年度末から徐々に派遣が再開され、今年度は1年ぶりとなる集合型の派遣前訓練を人数規模を縮小などしつつも再開し、募集につきましても、春募集を再開実施いたしました。ここに至るまでのOB・OGの皆様のご支援・ご協力に、あらためて感謝申し上げます。引き続き、全隊員の一日も早い派遣に向けて尽力してまいります。

今年は、「TOKYO2020大会」が開催され、多くのOB・OGの皆様が協力隊経験を通じて培われた異文化理解などの力を発揮し、オリンピック・パラリンピックのボランティアや選手同行などでご活躍されました。

その他の分野においても、コロナ禍の厳しい状況下であっても、隊員時代に培った「巻き込み力」を生かして国内外の課題解決に挑むOB・OGの方々が多くいらっしゃいます。隊員時代から継続する信念を曲げず、さまざまな工夫を凝らしながら活動を続ける力や、そこから広がる仲間の輪は、

まさに皆様がお持ちの「財産」であると考えます。本誌においても、「多文化共生」「震災復興」「地方創生」などの文脈でご活躍なさっているOB・OGの皆様を取り上げさせていただいておりますので、ぜひご覧ください。

隊員の皆様の帰国後の社会還元には、引き続き国内外より高い期待が寄せられています。私たち青年海外協力隊事務局としても、皆様のご帰国後の活動をより一層後押しすべく、「多文化共生・地方創生」に資する地方自治体・公的団体・NPOなどの求人を協力隊経験者の皆様にご紹介する「無料職業紹介事業」など、新たな取り組みを開始しております。

今後とも、皆様が協力隊の活動で得た経験や気づきを国内外に波及させていくサポートになるような施策を検討してまいりたいと考えていますので、ポスト・コロナに向けての歩みを皆様とご一緒できましたら幸いです。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念するとともに、JICA ボランティア事業に対する変わらぬご支援をお願い申し上げ、OB・OG向け『クロスロード』発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。



JICA 青年海外協力隊事務局長

### 小林広幸

Kobayashi Hiroyuki

1992年 青年海外協力隊員（タンザニア／理数科教師／1992年度1次隊）として派遣

1996年 国際協力機構（JICA）入構。ルワンダ事務所長、産業開発・公共政策部（現：社会基盤部）次長、四国センター所長を務める

2019年 青年海外協力隊事務局長に就任



# コロナ禍のJICA海外協力隊へのJICAの対応

P6のJICA海外協力隊派遣現況にもあるとおり、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が今年も続いています。JICA青年海外協力隊事務局の対応やJICA海外協力隊の現状をお伝えします。

## ●特別派遣前訓練を実施中

隊員候補者が、派遣前訓練終了前後に日本国内の地域が抱える課題解決に資する活動に参加しながら、住民参画を促すアプローチやコミュニケーションスキル、課題解決に向けた計画策定など、派遣国での活動に必要な実践的な経験や知識を習得することを目的としています。2020年8月末より、全国合計30カ所にて、94名の候補者を受け入れていただき、現在も実施中です（2021年10月1日現在）。

## 〔 課題別派遣前訓練について 〕

これまで、一部の方の合格の条件としていた「技術補完研修」の制度変更を行い、合格者を対象とした課題別技術支援の一環として実施することとしました。これに伴い、「課題別派遣前訓練」と改称。コロナ禍で対面型の研修の実施に制約があるなか、デジタル教材やZoomなどを活用したオンラインコンテンツの拡充を図り、隊員の皆さんの現地での隊員活動に役立つ、実務的な技術や技能の向上を図ります。

## 〔 募集について 〕

### ●2021年春募集について

応募総数は1359人でした。最終合否は2021年10月25日に発表されました。2022年度1次隊（2022年7月頃）以降の派遣予定です。

### ●次回の募集について

2021年秋募集は「延期」になりました。延期後の募集再開は、2022年4月に同年春募集とあわせて実施することを予定しています。

## 〔 派遣前訓練について 〕

2021年度のJICA海外協力隊訓練所（二本松および駒ヶ根の2カ所）における集合型訓練は、感染リスク回避のため、以下のとおり変更して実施しています。

(1) 合宿型の集合訓練に先立ち約2週間、感染リスクを抑えるため風呂・トイレが個室に備わったホテルで体調の変化がないことを確認しつつ、オンラインで研修を実施しています。

(2) 訓練所における集合型訓練は、入所人数上限を従来の半分以下、日数を45日に短縮して実施しています。

(3) 集合訓練終了後に、2週間の遠隔型語学訓練を継続しています。

### ●2021年度派遣前訓練実施状況と予定

|           |     |
|-----------|-----|
| 2021年度1次隊 | 98名 |
| 2021年度2次隊 | 41名 |
| 2021年度3次隊 | 64名 |
| 2021年度4次隊 | 25名 |
| 2021年度5次隊 | 36名 |

※長期派遣者向け訓練について2021年度2、4次隊は駒ヶ根訓練所のみ、また2021年度5次隊については二本松訓練所のみで実施予定（2021年10月末時点）。

## 〔 渡航再開にあたってのQ&A 〕

### 今後の派遣の見通しは？

▶渡航再開が決定した国、案件については、再派遣を希望する特別登録者に意向を確認のうえ、順次派遣していきます。また、2020年度の派遣前訓練に参加予定だった方は、2021年度以降の隊次で派遣前訓練に参加していただいています。2021年春募集の合格者は2022年度1次隊以降に編成されます。新型コロナの感染状況は予断を許さないものの、2024年度にはコロナ前の水準の派遣規模に戻すことを目指して取り組んでいます。

### 任地に医療環境が整っていない場合は？

▶渡航再開にあたっては、「現地での医療ケアが十分に受けられること」を確認し、活動や生活環境などについて調査を実施したうえで隊員の渡航可否を判断しています。

## 〔 現地での隊員活動について 〕

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各配属先で新しい生活様式を踏まえた業務が模索されており、配属先によってはオンライン業務なども取り入れられつつあります。医療分野や学校などの身体接触が必要になる現場では、マスク着用や細やかな消毒をはじめ、患者に直接触れない、対面授業に出席する生徒数の調整を図るといった感染症防止策を徹底した取り組みも実践されています。現地の方々と試行錯誤し解決策・打開策を相談し、実践していく活動や、任地での感染症予防の啓発活動を行うことが期待されています。

## 〔 渡航再開状況 〕

JICAは条件の整った国から順次段階的に職員や専門家など関係者の渡航を再開しています。これを受け、JICA海外協力隊についても、以下の考え方に沿って渡航を再開しています。

(1) 派遣国において感染状況が落ち着きを見せていること、本邦と派遣国間の移動ができること、医療ケアが十分に受けられることなどの条件が整っている

(2) 本人の意向、任地の状況や活動・生活環境を確認し、必要に応じて任地、配属先、活動内容などの見直しを実施する

(3) 派遣国への渡航再開が決定されたとしても、個々の協力隊員の渡航可否は各人の健康状態を確認したうえで判断する

2021年11月1日時点で、条件を満たしていると判断した46カ国（東南アジア5、東・中央アジア4、大洋州2、南アジア3、中南米14、中東欧州4、アフリカ14カ国）について渡航再開を決定しています。ただし、国により対象とならない地域、案件があるほか、その後の状況変化により、実際の渡航が見合わせとなる場合もあります。渡航再開国はP6「派遣現況」をご覧ください。

現在の派遣国数

27カ国

# JICA 海外協力隊派遣現況

(2021年9月末現在)



(単位:人)

## ■ アフリカ地域

| 国名       | 一般 | シニア |
|----------|----|-----|
| ウガンダ     | 8  |     |
| ガーナ      | 8  |     |
| ガボン      | 11 | 2   |
| カメルーン    | 1  |     |
| ケニア      | 6  |     |
| ザンビア     | 2  | 1   |
| ジンバブエ    | 10 |     |
| ナミビア     | 7  |     |
| マダガスカル   | 8  |     |
| マラウイ     | 12 |     |
| 南アフリカ共和国 | 2  |     |
| ルワンダ     | 16 |     |

## ■ アジア地域

| 国名      | 一般 | シニア |
|---------|----|-----|
| ウズベキスタン | 1  |     |
| カンボジア   | 8  |     |
| キルギス    | 1  |     |
| スリランカ   | 2  |     |
| タイ      | 1  |     |
| タジキスタン  |    | 1   |
| 中華人民共和国 | 2  |     |
| ブータン    | 3  |     |
| ベトナム    | 6  |     |
| ラオス     | 20 | 3   |

## ■ 欧州地域

| 国名   | 一般 | シニア |
|------|----|-----|
| セルビア | 4  |     |

## ■ 中東地域

| 国名    | 一般 | シニア |
|-------|----|-----|
| エジプト  | 4  |     |
| チュニジア | 1  |     |
| ヨルダン  | 3  |     |

## ■ 中南米地域

| 国名      | 一般 | シニア | 日系一般 | 日系シニア |
|---------|----|-----|------|-------|
| ドミニカ共和国 | 8  |     | 4    |       |

## ■ 合計

|                | 一般                        | シニア                    | 日系一般               | 日系シニア            | 小計                        |
|----------------|---------------------------|------------------------|--------------------|------------------|---------------------------|
| 派遣中<br>(男性/女性) | 155<br>(73/82)            | 7<br>(2/5)             | 4<br>(2/2)         | 0                | 166<br>(77/89)            |
| 累計<br>(男性/女性)  | 45,891<br>(24,355/21,536) | 6,559<br>(5,300/1,259) | 1,543<br>(597/946) | 547<br>(252/295) | 54,540<br>(30,504/24,036) |

一般 = 青年海外協力隊/海外協力隊

シニア = シニア海外協力隊

日系一般 = 日系社会青年海外協力隊/日系社会海外協力隊

日系シニア = 日系社会シニア海外協力隊



特集

# 巻き込み力

## 仲間を増やして社会課題に挑むOVたち

任地で多くの人に助けられながら活動した協力隊OVの多くが、帰国後も「社会のためになることをしたい」「経験を生かして活動したい」といった意思を持ち続けています。一方で、そうした気持ちはあっても、具体的に行動に移す手立てがないといった方もいるでしょう。

そこで、本特集ではビジネスやボランティアで社会課題に挑む6人のOVたち取材しました。

志を共にする仲間を増やしながらかの根的に活動を続けるOVたちの「巻き込み力」は、社会をもっと良くする力を秘めています。

17ページでは、協力隊事務局が主催する帰国隊員向け災害ボランティア研修についても紹介しています。「何かしてみたい」と感じているあなたにも届きますように。



河合さんは「JOC A東北で実現したいのは昭和の下町での暮らしにあるような「近所付き合い」だという。自身がそれを体験したのが協力隊活動で3年間を過ごしたインドネシアだった。現地では「困ったときには近隣の住民同士で助け合い、地域全体で子どもを育てるような関係性やコミュニティが健在でした。日本にこうしたコミュニティのあり方を『逆輸入』できるのでは」と感じました。

「看取りあい」の関係性を目指す



◀JOCA東北外観。中心に園庭があり、室内から園児たちが遊ぶ様子を見ることができる  
▶地域密着型の健康増進施設「ゴツチャ!ウェルネス岩沼」。8歳から85歳まで外国籍の方も含め現在約400名の地元住民が会員として在籍。独居高齢者の仲間づくりの場にもなっている

「僕も告別式に参列させてもらったのですが、近所の方たちが最後のお見送りをしておられました。JOC A東北でも地域の方々のお付き合いが深まる場所となつて、『看取りあい』関係になっていくとすてきなあとだと思います」

あえて壁をなくした理由とは

JOC A東北は時間帯によって施設の雰囲気や主な機能が変化する。午前中は園庭に保育園児たちの声が響き、

また、河合さんが18年から代表を務めたJOC A大阪での経験もJOC A東北で生かされている。

「JOC Aに来てくれる人には『いらつしやいませ』ではなく『こんにちは』という言葉をかけてほしいと思っています。飲食店や物販など有料コンテンツもありますから、お客様としてもおもてなしをしながらも、同じ地域に住む近所さんとして、今まで話したことのない人同士が話するきっかけをつくる場所になりたいと思っています。実際に口コミでJOC A東北を知り、来ていただけるようになった方も多かったです」

大阪時代、河合さんが特に印象深かったのが「看取りあい」の関係性だ。JOC A大阪の常連だったおばあちゃんが亡くなる時、異変に気づいて駆けつけたのも、亡くなったあとに告別式に参列したのも近所に住むJOC A大阪の常連客だった。

「特別なイベントではなく日常生活のなかで、世代や障害の有無を超えた『ごちゃまぜ』の交流があり、お互いが関わり合つて暮らしていく。本来地域にあったおせっかい人情とか(笑)、人と人のつながりがあることで生活に安心感が持てるというような。これからもJOC A東北という一つ屋根の下で、お互いに支え合つて生きるコミュニティづくりの仕掛けをつくっていき

お昼時にはそば屋を訪れた地元客が食事を楽しむ。午後には放課後の小学生たち、夕方以降は温泉目当ての入浴客とさまざまな人が出入りする。そして、壁の少ないオープンなスペースでデイサービスを利用する障害者や子育て支援センターに来られる親子などが過ごしている。来場者との間に自然な交流が生まれる。

「各機能を分断しないという意図で施設内には壁がほとんどありません。ガラス戸などを多用することで、音や視線が交差し人が自然に『ごちゃまぜ』で交流するよう設計されています」

一般的な高齢者や障害者福祉施設では利用者だけを対象とすることが多いが、JOC A東北では、福祉施設の利用者を含めた地域住民の交流によって地域全体を活性化させていくことを目的としている。スタッフが話のきっかけを振ることもあるが、利用者同士が何度か顔を合わせることで自然な会話が生まれることも珍しくない。

「特別なイベントではなく日常生活のなかで、世代や障害の有無を超えた『ごちゃまぜ』の交流があり、お互いが関わり合つて暮らしていく。本来地域にあったおせっかい人情とか(笑)、人と人のつながりがあることで生活に安心感が持てるというような。これからもJOC A東北という一つ屋根の下で、お互いに支え合つて生きるコミュニティづくりの仕掛けをつくっていき



地域子育て支援センターの一角にあるワークスペース



「J'sこどもLabo岩沼」(児童発達支援・放課後等デイサービス)に開所時から週4回通っている親子。「それぞれの子ども



2階テラスはモンゴルの移動式住居「ゲル」を設置。「放課後に小学生が遊びに来ます。夏はビアガーデン、冬は芋煮会などさまざまなイベントを企画しています」(河合さん)



◀JOCA東北外観。中心に園庭があり、室内から園児たちが遊ぶ様子を見ることができる  
▶地域密着型の健康増進施設「ゴツチャ!ウェルネス岩沼」。8歳から85歳まで外国籍の方も含め現在約400名の地元住民が会員として在籍。独居高齢者の仲間づくりの場にもなっている

震災復興支援から始まった  
公益社団法人青年海外協力協会(以下、JOC A)は、言わずと知れた協力隊OVを中心に活動する団体で、現在、石川県輪島市をはじめ、全国6地域で「ごちゃまぜ」をコンセプトにした多文化共生のまちづくりを行っている。2021年春に宮城県岩沼市の市営住宅跡地にオープンしたJOC A東北もその一つで、スタッフ130名のうち約30名が協力隊OVであり、地域全体を巻き込んだコミュニティづくりを行っている。

広い敷地内には保育園、地域子育て支援センター、障害児・者や高齢者のデイサービス、天然温泉の入浴施設、健康増進施設(運動ジム)、飲食店などがあり、毎日、国籍・世代・障害の有無などを超えて多くの人が集う。「地域の高齢者や子ども、障害者が自然と交流できる場所を目指しています」と話すのは、JOC A東北IWAYANUMA WAYマネージャーの河合憲太さんだ。家族とともに岩沼市に移住し、世代交流事業を通じたコミュニティづくりを実践している。

JOC A東北の成り立ちには11年3月

11日に起きた東日本大震災にさかのぼる。震災後、全国から協力隊OVの有志が集まり、岩沼市をはじめ宮城、岩手の復興支援活動を行った。震災直後の緊急支援期間を経て、同年6月にJOC Aと岩沼市の間でサポートセンター運営に関する協定が締結されると、支援内容は仮設住宅入居者支援、住民のコミュニティ支援に移行していった。

被災地域には仮設住宅や復興公営住宅が形成されていくに従い、住民の孤独死や自死が問題になることもある。一方で、沿岸地域から大規模な住宅移転が行われた岩沼市においては、孤独死や自死は発生しなかったと河合さんは話す。

「岩沼の仮設住宅ではJOC A職員が毎日それぞれのお宅に訪問し、ちょっとした声かけや健康チェックをしていました。この活動が現在のJOC A東北の基盤になっています。協力隊OVは専門家ではありませんが、それぞれの任地で人々と同じものを食べ、同じ言語で話し、地域住民の一員として暮らします。その経験が仮設住宅での見守り支援に役立つのではないのでしょうか」

一歩踏み出したい人へのメッセージ  
そこの一員になろうとした協力隊活動の経験を大切に

河合さんにとって巻き込み力とは？  
人と人を結びつける仕掛けをつくること



プロフィール：  
かわい けんた  
河合憲太  
インドネシア/水球/1997年度1次隊・京都府出身

JOC A東北IWANUMA WAYマネージャー。1997年に新卒で協力隊に参加。任期を1年延長してインドネシアで水球の普及活動や貧困地域での住民の支援活動を行う。帰国後はJICAジュニア専門員などを経験し、2008年にJOC A入職。本部勤務のあと、近畿支部(大阪・梅田)へ。18年摂津市にJOC A大阪を立ち上げて地域活動を行い、21年4月から現職。



# 三方良し、皆が幸せになるフェアトレードを実現

▼ソーシャルビジネス ▼フィリピン × 熊本県

幸せは自分たちで  
つくっていくもの

無農業・非遣伝子組み換え・フェアトレードの商品を扱う「Girls, be Ambitious（ガールズビーアンビシャス：以下GBA）」は、フィリピンのサステイナブルな暮らしからインスピレーションを得て誕生した。

2012年、協力隊の活動を終えて帰国した翌日にGBAを立ち上げた代表取締役の番匠麻樹さん。大学のときに渡航したフィリピンで「何もないところから幸せを生み出せる」人々の姿に感銘を受けたという。

「フィリピンのある地域に滞在した夜、台風で外は暴風雨、家のなかも停電で

真っ暗になりました。暗闇のなかで机の上に1本だけろうそくを立て、誰からもなく不安を打ち消すかのように歌を歌い始めた。家族4世代の大合唱になつていき……。大変な状況でも幸せを見いだそうとする姿に胸がいっぱいになりました。物質的には足りないものだけだけど、日本にはない豊かさがここにはある。そして、幸せは与えられるものではなく、自分たちでつくっていくものだと思います」

そんなフィリピンの人たちの心の豊かさの象徴だと番匠さんが感じたのが、伝統療法に使用されるハーブ「モリンガ」。昔から人々の健康や美容を支えてきたメデイカルハーブだ。緑茶に似た味を持つ葉や種子を加工して商品化



フィリピンの首都から数百キロ離れた田舎にモリンガの農園がある

動の任期終了後GBAを立ち上げて、すぐ彼女に会うためにフィリピンに戻りました。農業で地方の雇用を生み出したい、高品質な商品でお客様を喜ばせたいという志を共有し、彼女を信頼して事業を進めています。

わくわくする商品作り

番匠さんはフィリピンで初めて高品質のモリンガを見たときから、これなら日本人たちにも喜ばれると確信した。「隊員のときは村落開発隊員として活動し、フェアトレード商品を生産する団体のマーケティングや品質サポート管理をしていました。また、前職で商社の貿易部門で働いていたので、これらの経験を生かし、GBA設立当初はモリンガを使用した商品の卸販売をメインにしたビジネスモデルを描いてい

ました。でも、ありがたいことに卸先が増えていき、法人格を持つていなければ、食品や化粧品はお取引できない会社もあり、14年にはGBAを法人化しました」

番匠さんがGBAというブランドで大切にしているのは、関わる人全員が「わくわくする」商品作りだということ。「お客様が商品を手にとってわくわくすることはもちろんなのですが、生産者たちにも自分が育てた作物が商品になり日本人たちを幸せにしていることを想像してわくわくしてほしいと思っています」

一方で、ブランドの要である商品の製造過程では厳しいルールを課している。モリンガの葉の色のカラーチャートを作り、商品化できる・できないをシビアに判断し、変色して仕上がってしまったものは販売しない。

し日本人の人に使ってもらうことでフィリピンの精神的豊かさを伝えている。

GBAでは、モリンガパウダーや茶葉、美容オイルやココナッツやコーヒーなども取り扱っている。これらの商品は、原材料や製造過程だけでなく生産者の生活の質までもこだわって作られている。GBAに関わるすべての人たちの幸せを追求し、そしてより長く質の高い生活を持続できるよう工夫もしている。

「生産者に対し、家族が健康になる食事の栄養バランスを勉強会で伝えるなど、食育にも取り組んでいます。また、フィリピンの地方では経済的な理由から都会へ出稼ぎに出る若者が多いのですが、生産者の生活の質が上がり収入が安定したことで、若者が地元に戻ってきて農園を手伝うなど、自然に後継者も育っているようです」

フィリピンでは昔から残る地主制度で、農家が貧しい生活を強いられていることを知った番匠さんは、現地の農家をグループ化し、そのリーダーを事業主として契約を結んでいる。そして、それらの農家グループのマネジメントは現地の事業パートナーの女性に一任している。「フィリピンでの協力隊活

「ブランドの要である商品がぶれてしまったら、GBAに巻き込んだすべての人に幸せになってもらうことはできません。生産者さんにも自信とプライドを持って、その人らしくGBAに関わり続けていたきたいからです」

GBAとの関わりで生活が大きく変化したフィリピンのある家族がいる。モリンガ農家として働いているAさんは夫と子ども2人の4人家族。以前は夫婦共に夜遅い時間まで山で燃料用の木を拾い生計を立てていたが生活は苦しかった。しかし、モリンガ農家としてGBAに関わることで、Aさんは夕方には仕事を終えて帰宅できるようになった。

「2人の子どもたちは不安定な生活のなかで不登校になってしまっていたのですが、モリンガ農家として働くことで収入が安定し、母親が家で食事を作ることができるようになりました。また夫婦共にヘビースモーカーだったのですが、食育のワークショップで健康について学び、タバコもやめて健康的な生活をするようになりました。家庭の雰囲気も明るくなり、子どもたちは学校に登校するようになり、勉学に励みました。その結果、長男は去年大学に進学し、私に『エンジニアになりたい』と夢を語ってくれたんです」

番匠さんは、だからこの事業は辞められない、と嬉しそうに話す。巻き込んだ人すべてを幸せにしていこうとする信念の強さを感じた。



プロフィール：  
ばんしょう まき  
番匠麻樹（旧姓：山田）  
フィリピン／村落開発普及員／  
2010年度2次隊・熊本県出身  
株式会社Girls, be Ambitious代表取締役 CEO

大学時代にボランティアで行ったフィリピンで、何もないところから幸せを生み出せる現地の人々に感銘を受ける。フェアトレードの考え方を知り、フィリピンと日本をつなぎ「フェアトレードをビジネスとして成功させる」という目標を持ち、卒業後、商社の貿易部門勤務ののち協力隊に参加。帰国後に同社を設立する。

一步踏み出したい人への  
メッセージ  
起業は自分の思いを  
形にする手段の一つ

番匠さんにとって巻き込み力とは？  
ありのままの自分を生かして  
生きていくこと



GBAでは現地スタッフに適切な給与を保証し、適切な評価制度を策定し、インセンティブを支給する



モリンガの葉を加工した茶葉とパウダーはドリンクや料理に使える。種子から作るオイルはスキンケアに用いる





# 医療通訳で在住外国人を支援

▼在住外国人への医療支援 ▼兵庫県神戸市

言葉の壁で  
医療が受けられない人々

医療通訳研究会 (MEDINT) は、すべての外国人に医療現場で質の高い通訳を提供することを目的に、医療通訳者や医療従事者のための研修やネットワークづくりを行っている。扱う言語は、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語の5言語。2002年の設立から関わってきたのが、協力隊OGの村松紀子さんだ。

村松さんが派遣国であるパラグアイから帰国したのは91年。前年の90年に日本の入管法（出国管理及び難民認定法）が改正されたため、南米から多くの日系人が出稼ぎのためにやって来るようになっていた。村松さんが暮らす兵庫県でも、県が在住外国人のために英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語による相談窓口を設置。村松さんは兵庫県国際交流協会スペイン語担当の相談員に応募し、93年4月に相談員の仕事に就いた。

村松さんが相談員として困り事を抱えている在住外国人と関わっていくなかで感じたのは、医療現場での通訳は特別だということ。きっかけの一つが、95年の阪神淡路大震災だった。被災し

た在住外国人に結核や精神疾患を患う人が急増し、休日を利用して診察に行したが、医療の通訳は想像以上に難しいものだった。

「忘れられないのが、髄膜炎の子どもの通訳を頼まれたときのこと。私は医療の専門用語がわからなくて、結局、お母さんとお医者さんが片言の英語を交えて話し始めました。スペイン語の通訳として来てほしいと頼まれたのに、何もできなかったことが非常に悔しく、申し訳なく感じました」

医療通訳は、語学が堪能であればできるというものではない。医療の専門知識はもちろんのこと、病院のシステムや保険制度の知識は必須で、インフォームドコンセント（※）に立ち会うこともあるため、心理的な負担も大きい。一方で、当時は「医療通訳」という言葉もない時代で、社会的認識は低く、多くがボランティアに頼っている状況だった。報酬が支払われることもほとんどないため、優秀な人材は報酬の高い会議通訳やガイド通訳に就いているのが現状だった。

「優秀な人材を集めるためには、医療通訳を専門職として確立し、魅力的な存在にしなければいけない。専門知識を学ぶとともに、働く環境を整え、当

事者の声を発信することも必要」と、考えた村松さんは、同じ思いを抱えていた医療通訳者や医療従事者を巻き込み、MEDINTを設立した。立ち上げにあたっては、同じ志を持つ少人数で活動を始めることを決めた。

「私が苦手としていたことが、できる人に集まっていた良かったです。結果、立場も考え方も違う人間の集まりですが、みな共通の目的を持った仲間です」

仲間たちに共通するのは「言葉のせいで医療が受けられない」という思い。村松さん自身、パラグアイに赴任してすぐ病気になる、言葉もわからず心細い思いをした経験がある。だからこそ、「病気になる」ときくらいは、自分の国の言葉で話せるような日本社会であってほしい」という強い思いがある。設立から19年。医療通訳を取り巻く環境は大きく変わった。11年に始まったメディカルツーリズムにより、日本の医療を受けるために来日する外国人が増えたことで、支援する外国人の数が急増。コロナ禍の今は、オンラインによる通訳も増えた。「日本にいても、仕事を通じて南米の人たちと関わることができています。協力隊の活動が、今なお続いているような感覚です」。

# ブラジル人学校で日本語をサポート

▼在住外国人への日本語支援 ▼愛知県豊田市

今後の日本に大切な外国人の目線

愛知県豊田市には日系ブラジル人やブラジル国籍の外国人が多く暮らし、市内にはブラジル人学校もある。神谷樹さんは、その一つである「エスコラー・ネクター」で、今年4月から日本語を教えている。

きっかけは、JICA中部が同校から日本語教育のやり方について相談を受けたことだ。両親が日本に定住し、日本で生まれ育つ子どもが増えているが、日本語をうまく話せない子どもも少なくない。そこで、日本語教育のスキルを持つ神谷さんたち協力隊のOVに声がかかった。日本語を教える活動を「ソーニョ（ポルトガル語で夢の意味）・プロジェクト」と命名し、月曜日と木曜日の週2回、OV2人が交替で授業を行っている。

神谷さんは日系社会青年海外協力隊として、2019年7月からブラジルに赴任。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、20年3月に一時帰国し、渡航の再開を待っていた。声がかかったのは、そんなときだった。「帰国して半年たっても状況は落ち着かず、再開は難しいかもしれないと感じ始めていました。ブラジル人学校に関わることで、ブラジ

ルでの経験を生かせるし、この経験がいつか再びブラジルに戻ったときにも生きるはずと思い、決めました」。

ブラジル人学校に通う生徒たちのバックグラウンドはさまざま。日本の公立学校になじめず転校してきたケースもあれば、ブラジルに帰国後のことを考えて通うケースや、ブラジル人のアイデンティティを忘れずにいてほしいという両親の希望で通うケースもある。そのバックグラウンドによって、日本語のレベルも違う。日本で生まれ育っているのにヒアリングは問題ないが、話せない、書けないという生徒もいる。神谷さんが担当する中高生クラスの生徒数は5人だが、彼らのレベルもそれぞれ違う。

「レベルの違いに、僕も最初は驚きました。でも、少人数なので細やかに指導できるのは利点です。もう1人の協力隊OGの先生と情報を共有しながら、授業を進めています」

ブラジル人学校向けの日本語教育の教材はないので、教材は神谷さんたち自作のプリントを使用。レベルが違っても生徒全員が授業に参加できるように、例えば「ルールとマナー」とテーマを決め、日本とブラジルの文化の違い

いについて、日々感じていることを話し合ったりすることもある。

緊急事態宣言下ではオンライン授業が中心で対面での授業ができないため、もどかしい思いもある。しかし、それを逆手に取り、JICA横浜にある海外移住資料館とオンラインでつなぎ、展示物を見せてもらう特別授業を行うなど、新たな試みにチャレンジしている。限られた環境のなかで、今できることを模索しながら授業を続けている。

神谷さんは、将来的に再渡航する機会を待つ「特別登録」でブラジルに戻りたいという思いもあるが、今は日本にいるブラジル人の日本語教育にもやりがいを感じている。「在住ブラジル人の子どもたちは僕たちとは違う目線で日本社会を見えています。その目線は、必ずこれからの日本の多文化共生社会の強みになるはずです。できることなら日本語をマスターし、彼らにしか見えないこと、感じられないことを、発信してほしいと思っています」。

在住ブラジル人たちが、彼らならではの目線と日本語を強みに、いつか日本社会にうねりを起こすかもしれない。生徒たちの可能性は無限に広がっている。そのスタート地点に、神谷さんは立っている。



プロフィール：  
かみや いつき  
神谷 樹

日系JV/ブラジル/日本語教育/  
2019年度1次隊・愛知県出身

大学在学中に協力隊の説明会に参加し、協力隊を目指すことを決意。大学に通いながら日本語教師養成学校にて資格を取得し、卒業後、日本語学校などの非常勤講師を経て協力隊員としてブラジルへ派遣された。新型コロナウイルス感染拡大のため、一時帰国後、特別登録を選択し、現在JICA中部に勤務。



ブラジル人学校で週に2回行う「ソーニョ・プロジェクト」。教材はお手製だ



言語分科会の様子。現在は5言語（英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語）で、それぞれ年に4回開催。会員にはベトナム語や手話ができる方もいる



プロフィール：  
むらまつ のりこ  
村松紀子

パラグアイ/野菜/  
1988年度1次隊・兵庫県出身

1988年に八ヶ岳中央農業実践大学校を卒業後、協力隊に参加。野菜栽培を通して、女性の社会参加のための仕組みをつくる。帰国後、JICA国内協力員を経て、93年から兵庫県国際交流協会スペイン語通訳相談員を務める。02年に医療通訳研究会を設立。共著に『実践医療通訳』『あなたにもできる外国人へのこころの支援』など。

一步踏み出した人への  
メッセージ

協力隊で使った現地語は、日本では希少で貴重です。さびつかせずにご覧ください

村松さんにとって巻き込み力とは？

同じ目標・志を持ち、  
考え方や得意分野が  
異なる人を仲間にする

一步踏み出した人への  
メッセージ

協力隊OVとの関わりを大切に。  
僕自身、それがきっかけで、  
活動が広がりました

神谷さんにとって  
巻き込み力とは？

新たな夢、目標が  
生まれるきっかけを  
つくること



特集  
巻き込み力

高齢者見守りアプリで安否情報を共有  
▼高齢化社会 ▼長崎県五島市

見過ごさなかったから、  
見えた課題

長崎県の五島列島の一つ、久賀島で「巻き込み力」を発揮しているのが、1996年にニカラグアで隊員活動を行っていた黒須久美子さんだ。

人口約3000人の高齢過疎化が進むこの島に、医師である夫の再就職を機に移住したのは16年のこと。「久賀島あおぞらマーケット」や「見守りアプリ」を立ち上げ、島に住む高齢者のサポートを積極的に行っている黒須さんに、まず、久賀島あおぞらマーケットを始めたきっかけからお話しいただいた。

「移住して3年目でした。この島で唯一の商店をしていたおばあちゃんが、高齢を理由に閉店を決めました。フェリーでしか物資が届かない離島で、高齢者の一人暮らしも多い地域ですから、店がなくなれば買い物難民ができてしまいます。もともと島のために何かしたいという思いがあったので、車を購入して移動販売のお店を始めました」  
最初は何かが必要かわからなかったが、「お線香がほしい」「切る力がないから、お手洗いに置くのはトイレトペー



地域唯一の商店がなくなることになり、黒須さんは移動販売車「久賀島あおぞらマーケット」をスタート。しかし実店舗のほうが集まりやすいという意見が増え、現在では移動販売は週1、実店舗営業がメインになった



パーよりチリ紙がいい」など、店に来る人たちからの要望を聞いていくうちに、地域の人たちが必要としている商品をそろえられるようになっていった。そして、約半年後に実店舗がオープン。「移動しないでほしい」という人が多くて(笑)。郵便局と診療所の間にある、わが家の倉庫を改装してお店にしましたが、立地がいいので、みなさんが立ち寄りやすいんですね。そこで移動販売は、週1回に切り替えました」

店を運営しているうちに気づいたことがある。高齢者の見守りの必要性だ。「この島は一人暮らしのお年寄りが多く、その人たちが店に来ないと気になったり、訪問販売で玄関をノックしても出てこない」と心配になったり、そういうことが少しずつ重なりました。それでこの島では今、見守りが必要かもしれないと気づいたんです。ちょうど私自身、放送大学の大学院の修士課程に在籍して研究論文を書く時期でしたので、見守りシステムを考えて、それについて島で実証研究を行うことにしました」  
思いついたのは、島に根づく互助機能と情報端末のタブレットを結びつけること。五島市のふるさと納税型クラウドファンディングに選定されたこと

で、タブレット端末の購入費用は捻出できた。その仕組みはこうだ。

「高齢者がよく利用する村役場や農協診療所など島内15カ所にタブレット端末を置いて、見守りが必要な人をその15カ所にいる人たちが見守ります。『お元気情報の共有』という形で、ある場所で誰かがその方のお元気を姿を見たら、アプリ内の表に「○」と入れると、それがみんなにわかる。気になる情報があるときは、コメント欄に得た情報を入力する。これによって、出歩いていないことや、誰とも会っていない高齢者、また早期に体調の異変に気づくこともできます。2日以上誰とも会っていない高齢者がいたら、電話したり、自宅に伺うなどして、体調を確認しています。各地域の民生委員さんに見守りが必要な人のリストを集めてもらい、今は高齢者や病気の人も16名を15カ所で見守っています」

この取り組みについて島民のアンケートを取ったところ、ほぼ100%の人から「安心につながる」という回答を得ることができた。今後は、市の町づくり協議会の活動の一つとしても検討され、まさに行政を巻き込んだ活動となりつつある。

そこで必要なことなら、  
取り組もう

黒須さんを知る人は、現在の黒須さんを見て「協力隊のような活動をしてるよね」と口をそろえるそうだが、黒須さん自身は、あまり褒められた隊員ではなかったと打ち明ける。

「私はニカラグアのカリブ海側の町にある公共病院に看護師の職種で入りましたが、初めて隊員が入る病院という

こともあり、現地では隊員の存在を理解してもらえず、生活環境も厳しく、地域になじめませんでした。地元の人

のためにと参加したのに、何も残せていないという焦りから、任期終盤には体調を崩してしまいました。今思い返すと孤児院や養老院など、病院以外にも活動はできたのに、自分の活動先がこたわりすぎて、ほかの場所で困っている人に対して何もしなかった。病院以外の場所にも活動の場を広げていけ

ば、誰かしらの役に立てたかもしれないのに、見て見ぬふりをしてしまった、そんな苦い経験があります」  
あおぞらマーケットから見守りアプリにつながる島での活動は、そんな隊員時代の失敗経験が生かされていると話す。  
活動を続ける原動力は「必要なことはやろう」という気持ち。自分にできることは、うやむやにしたいくないという。

「お店の利益も笑ってしまうほどではなく、ほとんどボランティアですが、それでも必要だからやっているし、やってくれてよかった、助かったと皆さんから言っていたのは嬉しいことです。ボランティアで働くことの重要性やお金でないもので得られる価値というのは、やはり協力隊から学んだことですね」

最後に、その第一歩を踏み出すアドバイスをくれた。

「海外でずっと生活して日本に戻ってくると、日本ってこんな国だっけ?って思うことがあります。わが家は子どもたちが小さいころはずっと海外生活でしたが、特にIT教育は、国によりますが途上国より日本のほうが遅れていると感じます。そういうことがわかるのも、やはり海外で生活してきたから。協力隊だからこそわかる新しい視点で、もっとこうしたらいいのという気づきを持つたら、それが何かを立ち上げる第一歩になるんじゃないかと思えます」

一歩踏み出した人へのメッセージ

協力隊だからこそ  
持てる視点が、新たな  
事業を生み出す一歩に

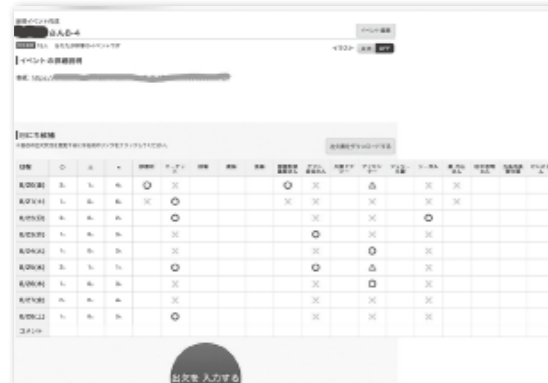
黒須さんにとって巻き込み力とは?

まずは自ら始めること。  
それが周囲を巻き込んでいく



プロフィール:  
くろすくみこ  
黒須久美子 (旧姓: 伊藤)  
ニカラグア/看護師/  
1996年度3次隊・愛知県出身

大病院勤務、NGO参加を経て協力隊に参加。2003~06年グアテマラで在外健康管理員。元外務省勤務で医師である夫の赴任によりスリランカ、タンザニアに在住。16年、五島列島へ移住し、久賀島あおぞらマーケット店を営む傍ら、放送大学大学院にて高齢者の安否情報共有システムについて研究を行い、現在実践中。



見守りアプリは○△×の簡易なものだが、気づいたことがあればコメントを書き込める



見守り登録されている方を見かけたら、見守り地点に指定された場所の担当者がチェックして共有する



## 国内災害ボランティアに関心のある皆様へ

### ■ 帰国隊員向け災害ボランティア研修を始めました

近年、自然災害が多発化・深刻化している日本国内において、これまで多くのJICA海外協力隊帰国隊員の皆さんが活躍してきました。協力隊経験のなかで培われた「へこたれない力」「利他的精神」のほか、在住外国人の方が増えている現状での、言語力だけではなく「異文化理解」の精神などは、まさに被災地支援の現場で必要とされる力です。

そこでJICAでは、帰国隊員の皆さんが災害ボランティアに参加されるにあたってスムーズに活動ができるよう、基礎的な知識や心構えなどをお伝えする「災害ボランティア研修(導入編)」の実施を開始しました。



2021年7月にオンライン上で行った災害ボランティア研修の集合写真

### 第1回災害ボランティア研修実施報告

初回の研修は2021年7月15日(木)・17日(土)の2日で行われ、計40名の帰国隊員の皆さんが参加しました。研修のなかでは、国内の複数の被災地でボランティア活動に尽力してきた青年海外協力隊相談役のほか、東日本大震災で被災し、当時多くのボランティアを受け入れられた宮城県東松島市役所の方や、岩手県釜石市社会福祉協議会の方からもお話いただきました。研修参加者からの評価も非常に高く、今後も災害ボランティア研修(導入編)および、より具体的なテーマ別のセミナーを定期的に行っていく予定です。

#### 研修

研修(2021年度) | JICA海外協力隊  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/training/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/training/index.html)



#### セミナー

テーマ・分野別セミナー、勉強会  
| JICA海外協力隊  
[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/seminar/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/seminar/index.html)



### 1 SNSを活用したネットワークができます

帰国隊員の皆さんに調査した結果、「同じテーマに関心を持った帰国隊員同士のつながりの場がほしい」というお声をいただいたことから、青年海外協力隊事務局では、SNSの一つであるLinked In(リンクドイン)を活用した「帰国隊員災害ボランティアグループ」を立ち上げることを検討しています。災害ボランティアに関心のある方々同士のネットワーク強化および情報交換の場になればと考えております。詳細につきましては、後日、JICA海外協力隊ウェブサイト「NEWS お知らせ」でご案内いたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>



### 2 公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)の登録制度のご案内

公益社団法人青年海外協力協会(以下、JOCA)では、有事の際に災害ボランティアの募集を開始します。有事の際に災害ボランティアを希望される皆様は、下記JOCAウェブサイトからボランティアを希望する旨ご連絡ください。

お問い合わせフォーム [災害援助専門ボランティア 応募・登録に関して] お問い合わせの種類 ○[復興庁復興支援員・災害援助専門ボランティア]にマークしていただき、お問い合わせの内容に災害ボランティア希望とご記入ください。

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mikd-qiojt-6597bf2d43279a072ebd716e0e451a16>



# 「狩り部」の学生と挑む、農家の獣害問題

▼ 獣害対策 ▼ 東京都新宿区 × 千葉県、山梨県

地元猟師の指導を受けて活動

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下WAVOC) 准教授

の岩井雪乃さんは、2017年に獣害対策がテーマのボランティアサークル「狩り部」を創設した。コロナ禍以前は2カ月に一度、千葉県鴨川市などの受け入れ先農家に赴き、地元猟師らの指導のもと、学生たちと獣害対策に取り組んできた。「狩り」といっても銃は使わず、わなを設置するためのお手伝い

が中心です。なかでも草刈りは重要な対策作業です。獣が山から人里へと出てくるとき、身を隠す草がないと警戒して進みにくくなるからです。農家で活動中の昼食はジビエ料理。イノシシやシカの肉料理を猟師や農家の人たちと囲む、楽しいひとときだ。

実は近年、日本の農村ではイノシシやシカなどの野生動物による獣害が激化しており、19年度の農作物被害額は158億円にもなる。

「自然環境が悪化して動物が山にすめないからではと思われがちですが、むしろその逆で日本は動物天国です。昔と比べて人が山に入ることも減り、動物の暮らしやすい環境が増えています。」

集落の過疎化が進むことで山から動物が下りてきやすくなり、収穫直前の成熟した農作物を狙うのです。」

このような獣害は農村の生活環境を悪化させ、過疎化を進め、さらなる被害…と負のスパイラルを呼び起こす。

そもそも、岩井さんが狩り部を立ち上げたきっかけは16年の秋の出来事だった。岩井さんの夫が千葉県鴨川市で半年間丹精した田んぼが黄金色に実り、収穫目前だった。「うちも今週は稲刈りだね」と話したその翌朝、イノシシに踏み荒らされ、稲は全滅した。

岩井さんは協力隊時代の派遣国タンザニアの村に恩返しをしたと、1990年代からゾウによる農作物被害に苦しむ農民を支援するプロジェクトを運営していた。帰国後は大学院で動物と人間の共生を目指すアフリカ研究の道に進み、毎年のようにタンザニアを訪れていた。同国の北部では2000年代から個体数の増えたゾウが保護区を越えて村に侵入する被害が深刻化。数頭〜数百頭の群れで集落に押し寄せて畑を荒らし、興奮状態で人を殺すこともあった。しかし保護動物のため銃などは使えず、保護区へと追い払うにも口笛や笛、爆竹で脅かすく

らしいかできない。

「『ゾウが憎い』という住民の切実な声を聞いてきました。初めて彼らの気持ちを真に理解できたと感じました。」

イノシシによる被害が「自分ごと」となり怒りも後押しとなって、猟師になろうと決意。狩猟免許の一つである「わな猟免許」を取得し、わなを設置できるようになった。そして自分以外にも猟師を増やそうと勤務先のWAVOCに「狩り部」を創設したのだ。

「一人で何かを成し遂げるのは無理だし社会問題を一人で解決することもできないので、仲間として学生を巻き込もうと思ったのです。」

設立から4年。狩り部の現在のメンバーは48人になった。学生たちの動機は獣害や狩猟への興味よりも「ジビエを食べたい」というものが多いもの。今、現役の部員有志による「獣害対策ロボット」試作機の制作も進んでいる。さらに国内・海外で別分野の社会問題に取り組み卒業生も増えてきた。

「学生時代に経験したことをもとに、社会に出て還元していく人材を育てられていることは嬉しいですね」。岩井さんは笑みをこぼした。

一步踏み出した人へのメッセージ  
受け入れ先に負担をかけないよう、仲間内で知識や技術を共有。自分たちでできることはする

岩井さんにとって巻き込み力とは？  
誰よりもまず自分が楽しみ、情熱をもって取り組むこと



プロフィール:  
いわい ゆきの  
岩井雪乃  
タンザニア/理数科教師/  
1993年度1次隊・神奈川県出身  
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)准教授。専門は環境社会学、アフリカ地域研究。アフリカゾウによる農作物被害問題に取り組む「アフリカゾウと生きるプロジェクト」(NPO法人アフリック・アフリカ)などを主宰。著書に『ほくの村がゾウに襲われるわけ。』ほか。



くくりわなの解説をする猟師。わなを踏んだ獣の脚をくぐる仕組みだ

# 長く続く会にするためには

帰国後、協力隊の経験を持つ者同士で交流したり、何かしらの活動をした  
りたいと考えたとき、身近にコンタクトできるのが「在住地」「派遣国」「職  
種」などの共通項で結ばれているOV会です。

しかし、「コロナ禍で思うような活動ができていないOV会も多いのでは  
ないでしょうか。今回、「JOCVバレーボール会」「青年海外協力隊富山県  
OB会」「日本も元気にする青年海外協力隊OB会」の代表にオンラインで  
お集まりいただき、活動内容や課題、OV会を続けるために工夫しているこ  
となどを語り合っていました。

——今回は3団体の会長にお集まり  
いただきました。まず、それぞれの会  
について教えてください。

**三枝** 「JOCVバレーボール会」(以下、  
バレーOV会)は2015年に設立し、

帰国後の活動や、派遣中や派遣予定の  
隊員の支援をどのように行っていくか、  
ネットワークをつくり相談しながら活  
動を進めてきました。中心メンバーが

約10人、合計80人弱です。大部分がバ

レーOVですが青少年活動でバレーを  
やっていた人バレーが好きで参加して  
いるほかの職種の人もあります。

**竹中** 青年海外協力隊富山県OB会  
(以下、富山OV会)は1977年設立  
で、隊員経験を日本社会に還元するこ  
と、JICAボランティア事業の支援、  
OV会同士の親睦が大きな目的です。県  
出身の隊員約400人が会員です。

**河内** 日本も元気にする青年海外協  
力隊OB会(以下、日本も元気にする  
会)は、帰国後に日本の地域おこし協  
力隊などで孤軍奮闘しているOVで交  
流し、元気をもらったり悩みを共有し

たりしたいという思いから始まりまし  
た。各地で活動するOVが集まり、帰  
国後の支援や協力隊経験の生かし方に  
ついてよく話し合いを経て2016年

に発足しました。理念に賛同すればO  
Vでなくても入れます。メンバーリス  
ト登録者が約150人、フェイスブック  
ページの「いいね」は約420人です。  
——それぞれの特色を生かして活動  
されていると思います。具体的にどの  
ような活動をしているのでしょうか。

**三枝** 年に1回の総会では、皆で国際  
試合を見に行ったこともあります。18  
年に世界選手権が日本で開催された

特色ある活動内容は？

## 参加メンバー

さいぐさ だいぢ  
**三枝 大地** さん  
JOCVバレーボール会 代表  
(チリ/バレーボール/2004年度3次隊)

兵庫県出身。大学バレーボール部でのマネージャー経験  
後、運送会社勤務中に協力隊バックアッププロジェクトで  
のニジェル派遣を経て青年海外協力隊に参加。帰国後、  
スポーツインストラクターなどを経て、公益財団法人日本  
オリンピック委員会バレーボール専任コーチングディレク  
ター。女子U20、U23日本代表コーチ、U18日本代表  
チーム監督を歴任。



たけなか しげゆき  
**竹中 成行** さん  
青年海外協力隊富山県OB会 会長  
(マラウイ/木工/2006年度3次隊)

富山県出身。ボーイスカウト活動や8年間の大工を経て青  
年海外協力隊に参加。帰国後は、JICA国際協力推進員(富  
山県)、青年海外協力協会職員を務め、石川県輪島市の生  
涯活躍のまちづくりプロジェクト「輪島カプラー」に携わる。  
2018年、地元の富山県に戻り、公益財団法人富山YMCA  
職員となり、21年から富山県OB会会長を務める。



かわうち たけし  
**河内 毅** さん  
日本も元気にする青年海外協力隊OB会 代表  
(グアテマラ/森林経営/2002年度1次隊)  
(グアテマラSV/村落開発普及員/2005年度0次隊)

静岡県出身。自動車会社勤務ののちに、静岡大学農学部、  
同大学院を経て青年海外協力隊に参加。2005年にシ  
ニア隊員として再び派遣。08年から新潟県長岡市の公益  
社団法人中越防災安全推進機構に勤務し、中越地震の被  
災地域の復興支援や地域の防災力向上支援などの業務  
のほか、東日本大震災や11年新潟・福島豪雨、熊本地震な  
どの被災者支援にも携わる。

会費の集め方は？

ときは、開催地の一つ名古屋で周辺の  
バレー以外のOVにも声を掛け、通訳  
や案内など大会サポートをしました。  
最近の隊員には、出発前に日本バレー  
ボール協会と一緒に引っ越しをして  
もらい、帰国後もバレーボール関係や  
地域につながるような縁を結んでい  
ただこうと思っています。

**竹中** 富山県OV会なので、活動は富  
山県内になります。JICAボランティア  
の募集や国際協力エッセイコンテスト  
のお手伝い、出前授業や帰国隊員の体  
験談の場の提供、隊員の出発前の壮行  
会や帰国後の懇親会を定期的に行って  
います。特徴的なのは11年前から「協  
力隊ナビ」を毎月行ってきたこと。  
100回目の開催を超えてから年3、  
4回の不定期開催にしましたが、これ  
をきっかけに「協力隊を目指したい、

応募します」と言ってもらえたときは  
嬉しいですね。

**河内** うちの会のメンバーには、地域お  
こし協力隊や起業して地域で活動を  
している方、会社に勤めながら地域活  
動に関わっている方など多様な方がい  
るので、相乗効果を発揮してもらった  
り、JICAボランティアの帰国後研修  
や進路開拓セミナーなどでの「帰国後  
活動報告会」、各地のOVを訪ね活動  
のヒントを得る「OB・OGを訪ねる  
旅」、そして、年に1回の総会では1泊  
2日で懇親の場を設けてきました。

——それぞれ活発に活動されてきた  
のですね。コロナ禍以降、集まるのが  
難しくなっていますが、どのようにさ  
れていますか。  
**三枝** 去年から大体2カ月に1回、オ

ンラインで活動報告会を行っています。  
最近帰国した隊員から、隊次をさか  
のぼって現在の仕事やバレーに関係し  
た活動の紹介してもらい、その後は  
交流会をします。オンラインは、遠く  
にいて対面では集まれなかった人たち  
も参加できることがメリット。同じ派  
遣国で隊次の離れた3人がつながった  
り、帰国直後の隊員は任地で話を聞い  
ていた40年前の先輩隊員と出会えた  
り、とても盛り上がりがあります。

**河内** やはり、私たちもオンライン中  
心です。協力隊を育てる会の「育てる  
会」に「ニュース」に連載コーナーをいた  
たき、毎月1人のOVが寄稿しているの  
で、オンラインではスピンオフとして寄稿者  
にもっと詳しく話してもらいます。毎  
回10人から30人が参加しています。ス  
ピーカーによって参加メンバーも広が

り、多様なネットワークを知る機会に  
もなっています。

**竹中** 富山OV会も総会や協力隊ナ  
ビをオンラインで行うようになり、皆で  
集まる活動はできていません。  
そのようななかで、20年1月と2月  
に「コロナ禍で生活に困っている富山県在  
住の外国人を支援しよう」と、「わかち  
あいひろば」というイベントを行いました。  
寄付で集めた食料や日用品など  
を無料で提供するもので、約50人の外  
国の方が来て、困窮している方々が  
たら行政につながりました。ニュースな  
どで困っている外国人がいると聞いて  
すぐに行動に移せるのは協力隊だから  
こそ。メンバーリストなどで呼びか  
けると、当日はボランティアに10人  
以上が集まり、懐かしい顔ぶれが物資を  
抱えて来てくれたので、やって良かった  
なと思いました。

——いいですね。わかちあいひろばは、  
そこに住んでいるからこそできた活動  
ですね。ところで、コロナ禍で活動が  
限定されたり、すぐに会えなかったり  
することで、会費集めなどに困ったり  
していませんか。  
**河内** 日本も元気にする会は会費を  
取っていないので大丈夫ですね。発足  
過程の集まりなどはJICAの支援  
を受けてお金がかからないよう工夫し  
ました。

三枝 バレーOV会は、現役隊員は賛  
助会員なので会費を徴収していません。  
正会員に年間3000円を振り込んで  
もらって、予算を組んで活動計画を立

コロナ禍で変わったことは？



写真上：パネルトーク「青年海外協力隊×オリンピック×バレーボール」。  
JOCVバレーボール会はオリンピック出場経験者による  
「バレーボールオリンピックの会」とのコラボ企画も実施した

写真下：21年6月、オンラインで行われた「日本も元気にする  
青年海外協力隊OB会」の今年の総会。  
第2部では「地域で活動するOBOGのつどい」を開催。  
全国から約25名が参加した

「長く続く会にするためには」

会員を増やす工夫は？



青年海外協力隊富山県OV会が今年2月に行った「わかちあいひろば」。  
富山県在住の外国人に寄付で集めた食料や日用品を無料提供した

ていましたが、「コロナ禍によってできなくなったため1000円に減額しました。」

**竹中** 振り込みで会費の徴収ができていますね。富山OV会は実際に年会費3000円を納めて活動しているのは約20人。振り込みはハードルが高いようで皆で集まるときに会費を納める人が多かったため、それもコロナ禍で困っていることです。補助金に頼ってばかりでもいけないし悩ましいですね。

**三枝** うちがJOCVA（青年海外協力協会）からの活動費もいただいているので今のところやっていけています。——OV会を続けるうえで新しい会員を増やすことも重要です。工夫して

いることやアイデアはありますか。

**三枝** バレーOV会は会に入ってからこそ体験できることを企画しています。その一つが『月刊バレーボール』へのOVによる連載寄稿です。日本中のバレーボーラー憧れの雑誌に隊員当時の活動や自分の思いを載せられるのは魅力的です。先日の世界選手権では大会側から関係者IDを発行してもらって行きました。

**河内** 日本も元気になる会は、参加者を増やし、皆で活動をつくり上げることで盛り上がり上げていければと考えています。8月から「オンライン国内隊員連絡所」というイベントを始めました。派遣国で隊員連絡所に集まっていたようにオンラインでわいわい話す内容です。先日は育てる会ニューズ連載スピノフとの合体企画で、参加者がそれぞれOVが作るパンやビールを取り寄せて一緒に食べる会を開催しました。総会参加者からの発言がきっかけでしたが、「おいしそうだから」と参加し「オンラインの集まりでこんなにフランクに話せたのは初めて」という人もあり、盛り上がりました。

**竹中** 富山OV会は、コロナ以前は出発前の壮行会と帰国直後の懇親会を定期的に行い、若い人から古い隊次の方まで幅広い世代十数人で飲んだりしていました。小さい県ですから「帰国したら会で活動してね」と自然な流れで若い世代の参加がうまくいき、今の役員も20代、30代の若い人が務めてくれています。しかし、会えない状

況が続くと、最近の隊員が会に入るときつけがなくなるのではと心配です。——「コロナ禍はオンラインで参加できるようになったメリットがある一方で、実際に会えないことで課題も生まれているわけですね。ところで、そもそもOV会の魅力は何だと思えますか。」

**三枝** 5、6年前から派遣前訓練中に『特別講座』で指導法の講座を行っていますが、OV会としてやってみては、と思い、仲間にも伝えたい、「行きたい」となりました。隊員候補生やOVと会うことで協力隊に行った人にしかわからない熱量や当時は思い出し、エネルギーを補充して、また頑張りたいと皆が思っているんですね。

**河内** そうですね。日本も元気になる会も隊員時代の感覚を思い出せる場を設けることが大事だと発足当初から話しています。隊員時代のように悩みを相談し、応援し合い、ほかの隊員から刺激を受ける。オンラインではそのエネルギー量は小さくなるものの、皆でつながり話し合える場ができていくことは一つの成果だと思っています。

**竹中** わかります。「コロナ禍にあっても社会貢献の意識の高いOVは多く、身近にいて刺激を受けるし励みになります。富山を拠点に「ミリアプロジェクト」という国際協力と地域活性化を図る活動をクラウドファンディングも使って始めたグループがいますし、ACT富山国際協力協会という一般社団法人を立ち上げカンボジアにランドセルを送り続けているOVもいます。

——なるほど、熱い気持ちを思い出す場が求められているんですね。最後に今後の活動の抱負をお願いします。

**竹中** 私たちOVは広い視野で世界や未来について考え行動でき、また同じ思いを持つ仲間が近くにいて帰国直後に持っていた熱い思いを持続することができそうです。今後は、例えば地域でSDGsに関することに私たちが率先して取り組むべく、地域の人たちと共に活動したくなるきっかけをつくりていきたいです。

**河内** 各都道府県OV会と連携し各々の魅力を外に発信する機会をつくりたいと思っています。実は「コロナ前に千葉OB会と連携して総会を開催し、19年の台風被害の復興支援活動や千葉県に移住し農業をしているOV夫妻の様子を見る予定でした。また、地域おこし協力隊などさまざまな分野で活躍中のOVの講義を聴いて議論し、さらに会のなかにプロジェクトが生まれるような展開もできればと考えています。

**三枝** コロナ禍が明けたらまずは皆でバレーをしたいですね。また、エネルギー充電の場をほかのOV会の皆さんと連携してつくっていただきたいと思います。バレーボールと社会的な課題解決はつながらないと思われがちですが、私自身はスポーツと教育や農業、さらには地域おこし協力隊などつながり、人を育て、日本の社会が変わるようなチャレンジをして、少しでも前に進んでいけたらと思っています。

# 進路開拓インフォメーション

JICA海外協力隊経験を生かしたキャリア形成のための情報を紹介します。進路開拓支援情報の一覧は、右記、JICA海外協力隊ウェブサイト「進路開拓支援のご案内」をご覧ください。



[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/index.html)

## 無料職業紹介事業をご活用ください

JICA海外協力隊経験者の帰国後の社会還元活動を応援することを目的として、JICAは2020年12月に無料職業紹介事業の許可を取得しました。これにより求人情報を個別にご紹介することができるようになりました。

具体的な求人範囲は、外国人材の受け入れなど、多文化共生や地方創生などに関する自治体、公的団体、NPOなどでのお仕事です（求人元は日本国内のみとなります）。

原則、長期派遣で任期を満了されたJICA海外協力隊経験者のみが対象となりますが、コロナ禍で帰国され、やむを得ず2年間の任期満了をすることができなかった方も対象です。



求職者登録やご紹介の流れなどの詳細はウェブサイトをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/job\\_support/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/job_support/index.html)

## 帰国隊員奨学金事業が開始されました

「帰国隊員奨学金事業」は、帰国後2年以内の帰国隊員の中で、わが国を含めた世界の平和と安定のために活動に従事することを目的に、本邦および海外

の大学院でさらなる研鑽<sup>さん</sup>を積むことを希望される方および現に研鑽<sup>さん</sup>を積むべく就学中の方を対象とした奨学金事業です。

- ・200万円、返済義務なし。
- ・帰国後2年以内、40歳まで。
- ・すでに修学中・これから入学許可取得でも応募資格あり。
- ・研究分野は社会還元に資するものであれば不問。
- ・修業期間中および終了後は、最低3年にわたってJICAが指定する報告書の提出、モニタリング調査に協力いただきます。



対象者などの詳しい募集要項はウェブサイトをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/scholarship/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/scholarship/index.html)

# 帰国した隊員へのJICAによる 帰国後支援いろいろ

JICA海外協力隊経験を生かした帰国後の活躍のための情報を紹介します。

## OVとしての活動の幅を 広げたいなら

### 公益社団法人青年海外協力協会

(JOCA: Japan Overseas Cooperative Association)

開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を生かし活動してきたJICA海外協力隊の帰国隊員を中心に組織されています。JICA海外協力隊で培った精神とその経験を広く社会に還元するため、OB・OG会をはじめとする多くの団体とのネットワークを活用し、地域に根ざした国際交流・国際協力活動を行っています。長野県駒ヶ根市にある本部事務局をはじめ、拠点が全国7カ所にあります。最近のトピックスや会員申し込み方法など、会についての詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.joca.or.jp>

#### 関連記事

JOCA東北による「ごちゃまぜ」のまちづくり ▶▶ P8-9

OV会リスト ▶▶ P24-25

### 一般社団法人協力隊を育てる会

(SOJOCV: The Supporting Organization of Japan Overseas Cooperation Volunteers)

47都道府県2市にてそれぞれに活動する「JICA海外協力隊の応援団」です。JICA海外協力隊員の経験は日本社会にとって「宝」であると考え、協力隊事業が広く理解されて皆様に支援していただけるよう、民間の立場でボランティアによる組織を地域ごとに結成しています。JICA海外協力隊関係者と地域の人々をつなげ、よりよい国際社会と地域社会の発展を目指しています。最近のトピックスや会員申し込み方法など、会についての詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sojocv.or.jp>

## JICA海外協力隊の 情報を得るには？

### JICA海外協力隊公式ウェブサイト

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

JICA海外協力隊の“今”がわかる公式ウェブサイトです。ぜひチェックしてみてください。

### JICA海外協力隊公式Facebook

<https://www.facebook.com/jicavolunteer>

派遣中隊員の活動、メディアへの登場、JICA海外協力隊に関連するイベントなどの情報などを随時紹介しています。

### JICA海外協力隊公式Twitter

<https://twitter.com/jocvjimukyoku>

JICA海外協力隊に関連すること、派遣国の話題、日本国内でのイベントなど、さまざまなことをやわらかめにつぶやいています。

### JICA海外協力隊公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/jicajocvsv>

JICA海外協力隊の活動の様子や応募に役立つ情報を紹介する動画を視聴できます。

### JICA海外協力隊向け実践ガイド 『クロスロード』

<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/>

おなじみの『クロスロード』をウェブサイトで閲覧できます。

### OV向けの各種お知らせ

<https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/info/>

OVが主催するイベントなどの情報を掲載。掲載申請手続きを行うことで告知もできます(希望される場合は、掲載申請手続きの案内ページをご覧ください)。

### JICA地球ひろばウェブサイト内 「先生のお役立ちサイト」

<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/>

先生に限らず、出前講座や国際理解教育・開発教育でご活用いただける教材や映像教材などの閲覧やダウンロードができます。

### 進路相談カウンセラー/ 青年海外協力隊相談役

全国に「進路相談カウンセラー」や「青年海外協力隊相談役」を配置し、就職・進学をはじめとする進路開拓に必要な各種情報の提供やカウンセリングなどを行っています。2021年11月現在、全国に計20人を配置。それぞれの担当都道府県や連絡先は下記ウェブサイトをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/counselor/index.html](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/counselor/index.html)

### 教育訓練手当

JICAでは、進路開拓に役立つ技術・技能の修得や免許・資格の取得につながる教育・訓練を受ける場合に、受講のために支払った費用の8割(上限は20万円)を支援する制度「教育訓練手当」を設けています。受給資格や申請方法などの詳細は、下記ウェブサイトでご確認ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/allowance](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/allowance)

### 自治体・企業向け交流会

帰国隊員と自治体、民間企業、NPO法人など各種団体の交流を目的に、進路開拓を前提としたキャリアフェアと協力隊事業の理解促進の交流会という2つの趣旨で開催します。詳細は下記メールアドレスまでお問い合わせください。

[jvtpc-sinrosien5@jica.go.jp](mailto:jvtpc-sinrosien5@jica.go.jp)

(JICA青年海外協力隊事務局人材育成課 帰国後研修・交流会担当)

### 「帰国隊員進路情報」ページ

JICAが運営する国際協力のキャリア総合情報サイト「PARTNER」には、青年海外協力隊と日系社会青年海外協力隊の経験者を対象に、企業などの求人や進学、セミナーなど、進路開拓に関する各種情報を随時お知らせする「帰国隊員進路情報」ページを設けています。詳細は下記ウェブサイトでご確認ください。

<https://partner.jica.go.jp/CareerInfo>

### テーマ・分野別セミナー、勉強会

帰国後の進路開拓、社会還元活動などの参考となるセミナーを実施します。内容は進路(就職、進学、起業)、在日外国人支援、多文化共生、災害ボランティアなどテーマ・分野別で開催します。詳細は下記ウェブサイトでご確認ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/seminar](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/seminar)

### JOCV枠UNV制度

JICAは国連ボランティア計画(UNV)と提携し、UNVが各国に派遣するボランティア(国連ボランティア)にJICA海外協力隊経験者が参加する際の費用を負担する制度「JOCV枠UNV」を設けています。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career\\_support/unv](https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/unv)

# JICA 海外協力隊 OV会

「在住地」や「派遣国」など、共通項で結ばれたJICA海外協力隊経験者で構成するOV(OB・OG)会。その最新の基礎情報(2021年11月現在)をまとめました。

## 派遣国別 | 派遣国が同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOV会

| 地域   | 派遣国     | 団体名                     | 代表者  | 問い合わせ窓口   |
|------|---------|-------------------------|--|---|
| 中米   | エルサルバドル | 青年海外協力隊エル・サルバドル会        | 高田幸一(バスケットボール・1976年度1次隊前期)                             | ichi0704@jcom.home.ne.jp(高田幸一)  |
|      | ドミニカ共和国 | ドミニカ共和国OV会              | 綿引純男(体育・1988年度2次隊)                                     | sumiowatahiki@hotmail.com(綿引純男)                                       |
|      | パナマ     | 青年海外協力隊パナマOV会           | 立花邦彦(電子機器・1993年度1次隊)                                   | panamaov@yahoo.co.jp(吉岡初子)  |
|      | ホンジュラス  | ホンジュラスOV会               | 矢草山誠(小学校教諭/2007年度1次隊)                                  | sou-amayama@hotmail.co.jp   |
| 中東   | イエメンほか  | JOCV イエメン+UNV(国連)ネットワーク | 相場由夏(旧姓:佐藤/幼児教育・2007年度2次隊)<br>伊藤嘉一(UNV経験者<イエメン・1971年>) | meguro-ito@t02.itscom.net(伊藤嘉一)<br>kimura-ryoichi@ess-jpn.co.jp(木村亮一) |
|      | シリア     | シリアOV会                  | 桑田和幸(SV/シリア・品質管理・2008年度3次隊) = 会長代行                     | syriaov_admin@googlegroups.com(桑田・事務局)                                |
|      | ヨルダン    | ヨルダンネットワーク              | 末岡直樹(システムエンジニア・1991年度3次隊)                              | nsueoka@nifty.com   |
| アフリカ | エチオピア   | 青年海外協力隊エチオピアOB・OG会      | 並木義明(電話線路・1974年度2次隊前期)                                 | namiki.yoshiaki@mirait.co.jp(並木義明)                                    |
|      | ケニア     | 協力隊ケニアOB・OG会            | 川田直輝(工作機械・1988年度1次隊)                                   | info@kenya-jocv.com(川田直輝)   |
|      | タンザニア   | ワスワヒリの会                 | 藤 佳恵(村落開発普及員・2008年度3次隊)                                | waswahilinokai@gmail.com  |
|      | ニジェール   | ニジェール有志の会               | 大野岳夫(コンピュータ技術・2004年度1次隊)                               | takeo.ohno@nifty.ne.jp(大野岳夫)  |
|      | マダガスカル  | 青年海外協力隊マダガスカルOV会        | 佃 麻実(村落開発普及員・2009年度1次隊)                                | tiakomadagascar@outlook.jp  |
|      | マラウイ    | 日本マラウイ協会                | 西岡周一郎(元在マラウイ特命全権大使)                                    | info@japan-malawi.org   |
| 欧州   | ブルガリア   | ハイデブ ブルガリア              | 原 浩治(体育・1994年度1次隊)                                     | yusukeaznable@gmail.com(岡田裕介)   |
|      | ルーマニア   | ルーマニアOB会                | 増田美智世(旧姓:斗澤/看護師・1997年度3次隊)                             | jocvrom-admin@googlegroups.com  |
| アジア  | 中国      | 中国OV会                   | 羽田一三男(自動車整備・1988年度3次隊)                                 | nihao.haneda@nifty.com(羽田一三男)   |
|      | スリランカ   | スリランカ同窓ネットワーク           | 市川真理子(コンピュータ技術・1987年度3次隊)                              | ichi_mariko@yahoo.co.jp(市川真理子)  |
|      | ネパール    | 協力隊ネパール会                | 田中浩平(食用作物・1992年度1次隊)                                   | nepalkai@chautara-kaze.com(田中、上坂)                                     |
|      | バングラデシュ | バングラデシュOVの会             | 佐藤利哉(農業協同組合・1981年度1次隊) = 会長                            | nahoko@sol.dti.ne.jp(佐藤利哉)  |
|      | 東ティモール  | JICA海外協力隊東ティモールOB・OG会   | 城戸大樹(東ティモール・2016年度1次隊・環境教育)                            | timorlestjocv@gmail.com(堀内好恵)   |
|      | ベトナム    | ベトナムOV会                 | 青木宏祐(空手道・2004年度3次隊)                                    | kakuchari@yahoo.co.jp(青木宏祐)   |
|      | マレーシア   | 青年海外協力隊マレーシア会           | 白山 肇(理数科教師・1980年度1次隊)                                  | malaysia@ics-together.com(志岐文子)                                       |
|      | モンゴル    | モンゴルオボグの会               | 村上吉文(日本語教師・1991年度3次隊)                                  | https://www.facebook.com/MongolOBOG                                   |
|      | ラオス     | 青年海外協力隊ラオスOV会           | 関本政夫(農林統計・1996年度3次隊)                                   | sekimoto@cam.hi-ho.ne.jp(関本政夫)  |

## 分野等別 | 派遣中・帰国後の職種・活動領域などが同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOV会

| 分野(大) | 分野(小)     | 団体名                   | 代表者                          | 問い合わせ窓口                           |
|-------|-----------|-----------------------|------------------------------|-----------------------------------|
| 建築    | 都市計画・建築   | NPO法人都市計画・建築関連OVの会    | 設楽知弘(株式会社毛利建築設計事務所)          | evaa.jocv@gmail.com(設楽知弘)         |
| 教育    | 開発教育      | 学校から世界のみかたを考える会       | 梶 広大(ミクロネシア・小学校教諭・2011年度1次隊) | info@sekainomikata.com(梶 広大)      |
|       | 理数科教育     | ザンビア理数科教師会議 (AMAKASA) | 瀬戸洋一(ザンビア・理数科教師・1997年度1次隊)   | Aoki.Hidetake@jica.go.jp(青木英剛)    |
|       | 環境教育      | 青年海外協力隊環境教育OV会        | 加藤超大(ヨルダン・環境教育・2012年度1次隊)    | see.jocv@hotmail.com(加藤超大)        |
|       | 学校教育      | 全国OV教員・教育研究会          | 吉岡康裕(タンザニア・理数科教師・2000年度3次隊)  | senovkk@gmail.com(金田健一)           |
|       | 学校教育      | 関東教育支援ネットワーク          | 金田健一(ケニア・理数科教師・2000年度2次隊)    | mwalimu.kaneta@gmail.com(金田健一)    |
|       | 学校教育      | 京都府OV教員研究会            | 貝畑四朗(ジンバブエ・体育・2006年度3次隊ほか)   | masahirak0212@yahoo.co.jp(川村昌広)   |
|       | 学校教育      | 大阪教育ネットワーク            | 三野光雄(ウガンダ・理数科教師・2002年度1次隊)   | mituwo.sanno@nifty.com(三野光雄)      |
| スポーツ  | バレーボール    | JOCVバレーボール会           | 山崎 文(ガーナ・理数科教師・1990年度1次隊)    | kofitake@yahoo.co.jp(事務局・山崎 文)    |
|       | バレーボール    | JOCVバレーボール会           | 三枝大地(チリ・バレーボール・2004年度3次隊)    | yoshimizu.ghn011@gmail.com(吉水直保)  |
| 保健・医療 | 看護職       | JOCV看護職ネットワーク         | 成瀬和子(フィジー・看護師・1990年度2次隊)     | jocvnurse@gmail.com               |
|       | 栄養士       | 青年海外協力隊栄養士ネットワーク      | 氏家真梨(ボツワナ・栄養士・2003年度1次隊)     | mujjie@hagoromo.ac.jp(氏家真梨)       |
| その他   | リハビリテーション | JOCVリハビリテーションネットワーク   | 小泉裕一(モンゴル・理学療法士・2012年度1次隊)   | jocvrehabnetwork@gmail.com(小泉)    |
|       | 無線        | JOCV-NETアマチュア無線クラブ    | 小山栄一(ザンビア・無線通信機・1979年度3次隊)   | jk1xld@gmail.com                  |
| その他   | 地域づくり等    | 日本も元気にする青年海外協力隊OB会    | 河内 毅(グアテマラ・森林経営・2002年度1次隊)   | nippon.genki.jocv@gmail.com(河内 毅) |

## シニア | 海外協力隊や日系社会海外協力隊の経験者などで構成するOV会

|       | 団体名                        | 代表者                                   | 問い合わせ窓口                                       |
|-------|----------------------------|---------------------------------------|---|
| 総合    | NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会     | 森岡潔(SV/ザンビア・ヨルダン・電子工学)                | info@jicasvob.com                             |
| 在住地等別 | 札幌SVくらぶ                    | 佐々木義昭(SV/エチオピア・観光施設・2003年度派遣)         | ja8ve@jarl.com(齋藤邦夫)                          |
|       | 群馬県JICAシニアボランティアの会         | 笹木美子(SV/チュニジア・幼児教育・2005年度1次隊)         | piajulie_yoshiko@yahoo.co.jp(笹木美子)            |
|       | 千葉県JICAシニアボランティアの会         | 三輪達雄(SV/ブータン・協同組合・2013年度1次隊)          | chibajicasv02@gmail.com(高瀬義彦)                 |
|       | 静岡県JICAシニア海外ボランティア協会(SOVA) | 松村卓月(SV/タイ・衛生海洋学・2007年度派遣)            | czb12447@gmail.com(堀澤光栄)                      |
|       | JICA近畿シニアボランティアOV会         | 中谷さおり(SV/キルギス共和国・パッケージデザイン・2010年度2次隊) | uni0302jp@yahoo.co.jp(中谷さおり)                  |
|       | JICA兵庫シニアOV会               | 長田 守(SV/ベリーズ・都市計画・2013年度3次隊)          | mail@jhso.org(長田 守)                           |
| 分野別   | ICT海外ボランティア会               | 石井 孝(SV/タイ・電気通信・1999年度派遣)             | yamakawa.cocobridge@network.email.ne.jp(山川博久) |

## その他

| 種類              | 団体名                 | 代表者                         | 問い合わせ窓口                     |
|-----------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 親子がJICA海外協力隊に参加 | 青年海外協力隊の2世代参加を促進する会 | 久田守雄(マラウイ・上下水道設計・1986年度1次隊) | moriohisada@gmail.com(久田守雄) |

## 在住地等別 | 同じ都道府県・市の在住者や出身者などで構成するOV会

| 地域     | 県名等            | 団体名   | 代表者                                 | 問い合わせ窓口                              |
|--------|----------------|---|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 北海道・東北 | 北海道            | 青年海外協力隊北海道OB会                                 | 原田晴子(チリ・歯科衛生士・2008年度1次隊)            | b94110@nifty.com(吉田勉幸)               |
|        | 青森県            | 青森県青年海外協力協会(AOCA)                             | 蝦名雄三(ソロモン諸島・林業・森林保全・2018年度1次隊)      | aoca.jimukyoku@gmail.com(事務局長:金濱亨)   |
|        | 岩手県            | 岩手県青年海外協力協会                                   | 樋口正之(フィリピン・コンピュータ技術・2003年度1次隊)      | naura3hana0@yahoo.co.jp(事務局:小田島成良)   |
|        | 宮城県            | 宮城青年海外協力協会                                    | 川島孝志(ボリビア・自動車整備・1994年度3次隊)          | miyagi.jocv.ov@gmail.com             |
|        | 秋田県            | 青年海外協力隊秋田県OB会                                 | 打矢佳彦(マラウイ・理数科教師・2005年度2次隊)          | https://www.facebook.com/jocv.akita  |
|        | 山形県            | NPO法人山形県青年海外協力協会(YOCA)                        | 渡辺直樹(モロッコ・視覚教育・2004年度1次隊)           | info@yamagatayoca.org(代表)            |
|        | 福島県            | ふくしま青年海外協力隊の会                                 | 中山澄子(バラオ・小学校教諭・2000年度1次隊)           | fukushima.jocv@gmail.com(平出将孝)       |
| 関東甲信越  | 茨城県            | 青年海外協力隊茨城県OV会                                 | 石森和磨(ブラジル・日系日本語学校教師・2015年度0次隊)      | ov_yakuin@googlegroups.com           |
|        | 栃木県            | 栃木県青年海外協力隊OB会                                 | 大貫 泉(モザンビーク・農業土木・2011年度1次隊)         | tochigi.ob@gmail.com                 |
|        | 群馬県            | 青年海外協力隊群馬県OB会                                 | 當銀謙次(ガーナ・電気機器・1985年度2次隊)            | byq11521@nifty.com(當銀謙次)             |
|        | 埼玉県            | 青年海外協力隊埼玉県OB会                                 | 榎本 敬(タンザニア・土木施工・1994年度1次隊)          | saibokumeda@aol.com(桑田 浩)            |
|        | 千葉県            | 青年海外協力隊千葉OB会                                  | 西村邦雄(ネパール・理数科教師・1982年度4次隊)          | info001@jocvchiba.org                |
|        | 東京都            | 青年海外協力隊東京OB会                                  | 野村一成(マラウイ・養鶏・1978年度2次隊前期)           | nomura@asahishokuhin.co.jp(野村一成)     |
|        | 新潟県            | 新潟県青年海外協力協会                                   | 渡部 悟(ミクロネシア・土木設計・1992年度2次隊)         | watabe_st@kitac.co.jp(渡部 悟)          |
|        | 神奈川県           | 青年海外協力隊神奈川県OB会(KOCV)                          | 豊倉麗子(パラグアイ・日系日本語学校教師・20回生)          | info@kocv.jp(豊倉麗子)                   |
|        | 川崎市            | 川崎JICAボランティアの会                                | 内藤幸彦(エチオピア・天然痘監視員・1972年度1次隊)        | fvgp7530@nifty.com(内藤幸彦)             |
|        | 山梨県            | 山梨県青年海外協力隊協会                                  | 船木良彦(ニカラガア・養蚕・1999年度3次隊)            | k88ne23k@nifty.com(船木良彦)             |
| 東海北陸   | 長野県            | 青年海外協力隊長野県OB会                                 | 小林恭介(エクアドル・野菜・1996年度1次隊)            | nagano-jicaov@googlegroups.com(小林恭介) |
|        | 富山県            | 青年海外協力隊富山県OB会                                 | 竹中成行(マラウイ・木工・2000年度2次隊)             | info@jocv-toyama.jp(竹中成行)            |
|        | 石川県            | 石川県青年海外協力隊OB会                                 | 宮園達朗(ホンジュラス・水産物加工・1982年度3次隊)        | goto1016@hotmail.com(後藤喜久)           |
|        | 福井県            | 青年海外協力隊福井県OB会                                 | 千田崇裕(ドミニカ国・料理・2009年度2次隊)            | jocvfukui@gmail.com(事務局:荻田千津)        |
|        | 静岡県            | 青年海外協力隊静岡県OB会                                 | 武馬千恵(セントビンセント・村落開発普及員・2008年度2次隊)    | exjocv.shizuoka@gmail.com(武馬千恵)      |
|        | 岐阜県            | JICAボランティア岐阜県OV会                              | 田中 勲(ボリビア・青少年活動・2008年度4次隊)          | isao54tnk@gmail.com(田中 勲)            |
|        | 愛知県            | 青年海外協力隊愛知県OB会                                 | 稲垣佳成(フィリピン・村落開発普及員・1989年度3次隊)       | jocvaichioh@yahoo.co.jp(上田敏博)        |
| 三重県    | 青年海外協力隊三重県OB会  | 鈴木智久(ナミビア・PCインストラクター・2010年度3次隊、ケニア・2017年度2次隊) | suzukit@dles.jp(鈴木智久)               |                                      |
| 近畿     | 滋賀県            | 滋賀県青年海外協力協会(SOCA)                             | 左近健一郎(ネパール・理数科教師・1990年度1次隊)         | r.matsu@nifty.com(松村良司)              |
|        | 京都府            | NPO法人京都海外協力協会                                 | 坂根 均(スリランカ・自動車整備・1984年度3次隊)         | office@koca.or.jp(坂根 均)              |
|        | 大阪府            | 青年海外協力隊大阪府OB・OG会                              | 大平 緑(モンゴル・青少年活動・2014年度2次隊)          | osakaov@gmail.com                    |
| 中国四国   | 兵庫県            | 青年海外協力隊兵庫県OB会                                 | 阪井園子(カンボジア・小学校教諭・2007年度1次隊)         | mitsunakao@yahoo.co.jp(中尾光伸)         |
|        | 奈良県            | 奈良県青年海外協力協会                                   | 吉原由紀子(ヨルダン・養蚕・2005年度1次隊)            | yukkosuke@hotmail.co.jp(吉原由紀子)       |
|        | 和歌山県           | 和歌山青年海外協力協会                                   | 談儀善弘(ネパール・理数科教師・1983年度1次隊)          | dangiyhojp@yahoo.co.jp(談儀善弘)         |
|        | 鳥取県            | 青年海外協力隊鳥取県OV会                                 | 谷田孝之(ニジェール・小学校教諭・2000年度1次隊)         | issaissa@jt2.so-net.ne.jp(谷田孝之)      |
|        | 島根県            | 島根県青年海外協力協会                                   | 天津貞志(ブルキナファソ・村落開発普及員・2003年度1次隊)     | shimanejocvov@gmail.com(天津貞志)        |
| 九州沖縄   | 岡山県            | 青年海外協力隊岡山県OV会                                 | 近藤英生(モロッコ・測量・1981年度3次隊)             | https://www.facebook.com/ov.okayama  |
|        | 広島県            | 青年海外協力隊広島県OB会                                 | 竹内英祐(ウガンダ・土木・2008年度4次隊)             | jocv.hiroshima.obkai@gmail.com       |
|        | 山口県            | 青年海外協力隊山口県OB会                                 | 山尾和宏(インド・日本語教師・2010年度4次隊)           | valencia0522@gmail.com(山尾和宏)         |
|        | 徳島県            | 徳島県青年海外協力協会                                   | 佐尾山省二(ケニア・理数科教師・1980年度4次隊)          | kenya554@yahoo.co.jp(佐尾山省二)          |
|        | 香川県            | 香川県青年海外協力協会                                   | 三宅康仁(ホンジュラス・小学校教諭・2011年度1次隊)        | sykbp872@yahoo.co.jp(三宅康仁)           |
|        | 愛媛県            | 愛媛県青年海外協力協会                                   | 清家央樹(マラウイ・村落開発普及員・2008年度4次隊)        | weifan217@gmail.com                  |
|        | 高知県            | 高知県青年海外協力隊OB会                                 | 猪野孔太(南アフリカ共和国・電気・電子設備・2011年度1次隊)    | jocv_ob_kochi@yahoo.co.jp(猪野孔太)      |
|        | 福岡県            | 福岡県青年海外協力協会                                   | 小田哲也(コロンビア・青少年活動・1997年度1次隊)         | jocvfukuokakenov@gmail.com(齊藤ちづる)    |
|        | 佐賀県            | 佐賀県海外協力協会                                     | 鶴田さゆり(中華人民共和国・幼児教育・2009年度2次隊)       | xiaoli_0102@yahoo.co.jp(鶴田さゆり)       |
|        | 長崎県            | 長崎県青年海外協力協会                                   | 栗原航平(セネガル・小学校教育・2016年度3次隊)          | 283koheikurihara@gmail.com(渡辺智郎)     |
| 熊本県    | 熊本県青年海外協力協会    | 山本一憲(ボリビア・農業土木・2011年度1次隊)                     | jocakumamoto2014@gmail.com(山本一憲)    |                                      |
| 大分県    | 大分県青年海外協力協会    | 長岡健朗(フィリピン・獣医師・1988年度2次隊)                     | nkenro@ctb.ne.jp(長岡健朗)              |                                      |
| 宮崎県    | 宮崎県海外協力協会      | 清武信彦(ベトナム・家畜飼育・2007年度1次隊)                     | prometheus1@hotmail.co.jp(清武信彦)     |                                      |
| 鹿児島県   | 青年海外協力隊鹿児島県OB会 | 木原和代(日系JV/パラグアイ・日系日本語学校教師・1996年度派遣)           | happy_thanks_kazu@yahoo.co.jp(木原和代) |                                      |
| 沖縄県    | 沖縄県青年海外協力協会    | 菅原耕太(マダガスカル・村落開発普及員・2006年度2次隊)                | okinawajoca@gmail.com(金城雄太)         |                                      |

## 出身校別 | 出身校が同じJICA海外協力隊経験者などで構成するOV会

| 種類    | 出身校           | 団体名            | 代表者                        | 問い合わせ窓口                |
|-------|---------------|----------------|----------------------------|------------------------|
| 大学・短大 | 酪農学園(大学・短期大学) | 酪農学園青年海外協力隊OV会 | 南 繁(タンザニア・獣医師・1976年度1次隊後期) | gaia373@gmail.com(南 繁) |



# 国際協力NGO

協力隊経験者が主宰するNGOのうち、国際協力活動に取り組む団体の一部をご紹介します。

|   |  |
|---|--|
| 青い空の会<br>白石光代（グアテマラ／花卉／1999年度1次隊）   | 【グアテマラ】子どもたちの顔が見える、支援者の声が子ども一人ひとりに届く就学支援、グアテマラの伝統文化を生かした自立支援を行う。地元の人たちの協力のもと、地域に根ざした活動を目指している。 <a href="https://www.aoisoranokai.org">https://www.aoisoranokai.org</a>   |
| NPO法人アプカス<br>石川直人（スリランカ／環境教育／2002年度2次隊）   | 【スリランカ】ソーシャルビジネスを通した社会課題解決に注力。現在、視覚障害指圧師の指圧院「Thusare Talking Hands」の運営、持続可能な農業技術の普及および有機食品店「Kenko1st」の運営を行う。 <a href="https://apcas.org/">https://apcas.org/</a>   |
| アフリカ理解プロジェクト<br>白鳥くるみ（旧姓：川野／ケニア／家政／1978年度2次隊前期）                                       | 【アフリカ地域】元ケニア隊員たちが中心となって設立。可能性と世界的な課題を抱えるアフリカへの関心を高め、アフリカと日本の活力へつなげる活動（出版、教育支援、講座の企画・開催、情報提供など）を行う。 <a href="http://africa-rikai.net">http://africa-rikai.net</a>   |
| 認定NPO法人AfriMedico（アフリメディコ）<br>町井惠理（ニジェール／感染症対策／2006年度派遣）                              | 【アフリカ地域】「富山の置き薬」の仕組みをアフリカで展開し、人々の健康と笑顔に寄与することを目指す。現在パラレルワークのプロボノ約50人で活動。アフリカに情熱を持つ人材募集中。詳細はHPにて。 <a href="http://afrimedico.org">http://afrimedico.org</a>   |
| アラブの子どもとなかよくする会<br>西村陽子（旧姓：柳澤／ヨルダン／養護／1992年度3次隊）                                      | 【アラブ地域（特にイラク）】アラブ地域（特にイラク）を対象に、収入創出活動支援や、イラクと日本の子どもの交流促進にも取り組む。 <a href="http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com">http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com</a>  |
| Alphajiri（アルファジリ）<br>薬師川智子（ケニア／マーケティング／2013年度3次隊）                                     | 【ケニア】小規模農家の貧困解決に取り組む農業サプライチェーンマネジメント会社。農村の自助グループ組成のサポートをはじめ、高品質な農産物の流通・加工などで小規模農家の生活向上を図る。 <a href="https://www.borderless-japan.com/social-business/alphajiri/">https://www.borderless-japan.com/social-business/alphajiri/</a> |
| A&A（エイ・アンド・エイ）<br>馬場節子（バングラデシュ／染色／1988年度3次隊）  | 【バングラデシュなど】バングラデシュ東部で暮らす少数民族・ラクインの人々とともに、環境保護や子どもの教育支援を目的に活動する。2016年から女性の生産活動（織物）支援を開始。  |
| EGAO（エガオ）<br>原田千晶（パラグアイ／村落開発普及員／2008年度2次隊）  | 【パラグアイ】教育・農業・環境・地域経済発展を軸に、パラグアイの生活水準向上に向けた活動を行う。地域に根ざす持続可能な取り組みとすため、住民主体の運営体制を構築中。 <a href="https://www.facebook.com/ong.egao">https://www.facebook.com/ong.egao</a>   |
| NPO法人Growing People's Will（グローイング・ピープルス・ウィル）<br>高橋和哉（ケニア／道路設計／1990年度3次隊）              | 【フィリピン】杉並区および周辺自治体でまちづくり・障害者支援（特に視覚障害者支援）の活動を行う一方、開発途上国の就学困難児童の支援にも取り組む。 <a href="http://gpw.sakura.ne.jp/">http://gpw.sakura.ne.jp/</a>   |
| KESTES（ケステス）<br>黒田篤槻（ケニア／青少年活動／2017年度3次隊）=日本窓口代表                                      | 【ケニア】人格、成績共に優秀であるが、経済的な理由で就学の継続が困難なケニアの子どもたちを対象とする奨学金事業を運営。メンバーは、ケニアの協力隊員やその経験者たち。 <a href="https://www.kestes.org">https://www.kestes.org</a>   |
| 認定NPO法人シェア=国際保健協力市民の会<br>本田 徹（チュニジア／医師／1976年度2次隊前期）<br>仲佐 保（医師）                       | 【日本、カンボジア、東ティモール】母子保健、保健人材育成、医療アクセスの改善、保健教育の質向上、在日外国人支援などの分野における活動を国内外で展開する。 <a href="https://share.or.jp">https://share.or.jp</a>   |
| スランガニ<br>馬場繁子（スリランカ／幼稚園教諭／1986年度3次隊）  | 【スリランカ】スリランカの子どもたちの学びや生活の環境向上を目的に、幼児教育支援、絵本出版、教育里親事業、障害児通所施設の運営、女性の生計支援などを行う。 <a href="https://surangani2014.weebly.com/">https://surangani2014.weebly.com/</a>  |
| Chemchem ya Amani Tanzania（チェムチェム・ヤ・アマニ・タンザニア）<br>飯山尚子（旧姓：会田／タンザニア／村落開発普及員／2003年度2次隊） | 【タンザニア】孤児など学校に行けないタンザニアの子どもたちを対象に、就学支援を目的とした「里親制度」を運営する。 <a href="http://www.cat.wanakijiji.com">http://www.cat.wanakijiji.com</a>   |
| 中国児童教育援助協会（CCEAS）<br>菅 未帆（旧姓：市橋／中華人民共和国・幼稚園教諭／1994年度2次隊）                              | 【中華人民共和国】中華人民共和国の農村部の子どもたちの就学支援を行う。現在は日本からではなく中国の富裕層からの支援金を農村部へ届ける形で支援を継続。中国・日本の相互理解に向けた教育の推進にも取り組む。 <a href="http://www.cceas.net">http://www.cceas.net</a>   |
| NPO法人TICO（ティコ）<br>吉田 修（マラワイ／医師／1988年度3次隊）   | 【ザンビア、カンボジア】アフリカやアジアで保健・医療や農村開発などの分野における支援活動を行う。持続可能な自立の支援をモットーに、現地との協働を重視した活動を展開する。 <a href="http://www.tico.or.jp">http://www.tico.or.jp</a>   |
| トゥエンデ<br>米澤真奈美（タンザニア／理数科教師／1994年度2次隊）   | 【タンザニア】タンザニア産のコーヒーや布などの販売を通した同国の障害者への少額融資や篤銀行などの支援、および異文化理解ワークショップなどに取り組む。 <a href="http://www15.plala.or.jp/twende-tanzania">http://www15.plala.or.jp/twende-tanzania</a>   |
| NPO法人日本・バングラデシュ文化交流会<br>松本智子（旧姓：佐藤／バングラデシュ／野菜／1981年度2次隊）                              | 【バングラデシュ】バングラデシュ・ジェソール県ジャシャ部の農村で、地域住民参加による持続可能な大豆入り学校給食、大豆食品生産、農村女性の収入向上のための伝統刺しゅう製品生産を行う。 <a href="http://www.jbcea.org">http://www.jbcea.org</a>   |
| NPO法人パシフィカ・ルネサンス<br>長岡拓也（ミクロネシア／考古学／1991年度1次隊）  | 【ミクロネシア連邦を中心とした大洋州】大洋州の島々で消滅の危機にある伝統文化を未来に伝えるため、歴史文化遺産の記録・継承・教育を支援する活動を進めている。 <a href="https://pasifika.site/">https://pasifika.site/</a>  |
| バヌアツ・ナバンガ ピキニニ友好協会<br>仲 誠一（SV／バヌアツ／観光業／2005年度派遣）                                      | 【バヌアツ】日本の子どもとバヌアツの子どもをつなぎ、写真展や児童画展の開催、小学校への出前授業を通じて、子どもにふさわしく、すくすくと育つ機会を提供。 <a href="https://vanuatu-npfa.com/">https://vanuatu-npfa.com/</a>  |
| 一般社団法人Bokk Jambaar（ボック・ジャンバル）<br>藤原真美（旧姓：土久岡／セネガル／小学校教諭／2010年度3次隊）                    | 【セネガル】村落部における地域住民への保健教育、学校の学習環境改善、女性の収入向上活動のサポートなど、現地のカウンターパートを通じて日本から支援を行っている。 <a href="http://bokk-jambaar.org">http://bokk-jambaar.org</a>  |
| マダムけんけんのうどんハウスプロジェクト<br>楠川富子（SV／カンボジア／基礎保健／2006年度派遣）                                  | 【カンボジア】カンボジアの農村地区の小学校で、子どもたちの健康を守るための学校保健体制の一環として同国初の「学校の保健室」をつくり、モデル校としての支援活動をしている。 <a href="http://blog.livedoor.jp/madamu_kenken">http://blog.livedoor.jp/madamu_kenken</a>   |
| 認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金<br>藤掛洋子（パラグアイ／家政／1992年度2次隊）                                     | 【パラグアイ、日本（横浜・福岡）】パラグアイの農村部やスラムを中心に教育・生活支援や、ジェンダー課題解決にも取り組む。2020年度より日本国内でも在日外国人や困難な経済状況下の女性を対象に活動を開始。 <a href="http://mitai-mitakunai.com">http://mitai-mitakunai.com</a>   |
| NPO法人Rehab-Care for ASIA（リハ・ケア・フォー・アジア）<br>國谷昇平（タイ／作業療法士／2015年度1次隊）                   | 【アジア地域】高齢化が進むアジア諸国でリハビリテーションや介護の仕組みづくりに取り組む。保健・医療分野の協力隊経験者などがそれぞれの派遣国におけるプロジェクトのリーダーを務めている。 <a href="https://www.rehab-care-asia.org">https://www.rehab-care-asia.org</a>  |

# SOCIAL BUSINESS

「ビジネス」を通して社会課題の解決を目指す「ソーシャルビジネス」に挑戦する協力隊経験者の一部をご紹介します。

[凡例]

| 名称（名称の読みがな）<br>代表者  | 【事業対象の国／地域】 事業概要 ウェブサイト   |
|---|---|
| 株式会社ア・ダンセ<br>森重裕子（ブルキナファソ／村落開発普及員・2003年度1次隊）                                  | 【ブルキナファソ】ブルキナファソ産シアバターやモロッコ産アルガンオイルを使ったせっけんや化粧品、手仕事を大切にした雑貨やアクセサリーの企画・製造技術支援・販売を行う。 <a href="http://www.a-danse.jp">http://www.a-danse.jp</a>                                     |
| アフリカ工房<br>前田真澄（旧姓：鈴木／ガーナ／村落開発普及員／2001年度2次隊）                                   | 【ガーナ】ガーナ北部の村からフェアトレードで輸入したシアバターを原料に、化粧品の製造・販売を行い、日本とアフリカを笑顔でつなぐ。 <a href="http://www.africakobo.com">http://www.africakobo.com</a>  |
| 株式会社andu amet（アンドゥアメット）<br>鮫島弘子（エチオピア・デザイン・2002年度3次隊）                         | 【エチオピア】世界最高峰の羊皮「エチオピアシープスキン」をぜいたくに使用し、製品も製造過程も美しくあることを目指したエシカルリユクスなレザーブランド。表参道のコンセプトストアやオンラインで販売中。 <a href="http://www.anduamet.com">www.anduamet.com</a>                         |
| 株式会社アンパーアワー<br>木村陽介（ケニア／村落開発普及員／2011年度4次隊）<br>岡本ひかる（ガーナ／プログラムオフィサー／2011年度4次隊） | 【ケニア】「カラフルにくつろぐ」をコンセプトに、軽くて丈夫なサイズル繊維を用いた彩り豊かな収納かご「ORIKAGO」を、ケニアの女性たちと共に企画・製造・販売する。 <a href="https://www.oriwego.com">https://www.oriwego.com</a>                                  |
| eje &（エジェ・アンド）<br>西田すみれ（旧姓：北島／キルギス／村落開発普及員／2013年度1次隊）                         | 【キルギス】キルギスの女性たちが現地産の羊毛を使い、現地産のハーブなどで草木染めをしてつくったフェルトの雑貨を輸入・販売する。「eje」は、キルギス語で「目上の女性」の総称として使われる言葉。 <a href="https://ejeand.thebase.in">https://ejeand.thebase.in</a>                |
| 縁結び工房<br>内山千尋（タイ／日本語教師／1994年度2次隊）   | 【タイ・ラオスを中心とする東南アジア地域と日本】タイやラオスの織物の村で手染め・手織りでつくられた絹織から仕立てた茶道用用紗を中心とする茶道小物の企画・製造・販売。茶道入門講座や、外国人を含めた初めてのの方のための気軽な茶会の実施。 <a href="https://emmsu-tea.jp">https://emmsu-tea.jp</a>      |
| 株式会社Girls, be Ambitious（ガールズビーアンビシャス）<br>番匠麻樹（フィリピン／村落開発普及員／2010年度2次隊）        | 【フィリピン】フィリピン産のモリンガやココナツオイルなどを素材とする食品や化粧品などの企画・輸入・販売を行う。 <a href="https://www.girls-be-ambitious.com">https://www.girls-be-ambitious.com</a>                                       |
| カンガ屋 katikati（カティカティ）<br>柳澤栄次（ケニア／村落開発普及員／2009年度3次隊）                          | 【ケニア】東アフリカの民族布「カンガ」の専門店。カンガを中心としたファブリックや雑貨の制作や販売を行う。 <a href="https://www.kanga-ya.com">https://www.kanga-ya.com</a>  |
| jam tun（ジャムタン）<br>田賀朋子（セネガル／コミュニティ開発／2014年度2次隊）                               | 【セネガル】「アフリカと日本をわくわくでつなぐ」をコンセプトに、セネガルのカラフルなプリント布を使った服や雑貨の制作・販売を、同国のテラーたちと共にを行う。 <a href="https://www.instagram.com/jamtun.africa/">https://www.instagram.com/jamtun.africa/</a>    |
| Semilla（セミージャ）<br>白石光代（グアテマラ／花卉／1999年度1次隊）                                    | 【グアテマラ】グアテマラの誇る織物やビーズを使った民芸品の企画・製作・販売を行う。作り手である村の女性たちの経済的自立を目指している。 <a href="https://semilla.stores.jp">https://semilla.stores.jp</a>   |
| タツノオトシゴプロジェクト<br>丸山ちさと（ガーナ・青少年活動・2012年度2次隊）                                   | 【ガーナ】ガーナに設立したNGOで障害者の雇用を生むために伝統織物「ケンテ」のショールの販売、日本のアパレル会社からの製品受注などを行う。 <a href="http://ta2nooto45.base.ec">http://ta2nooto45.base.ec</a>   |
| daladala.（ダラダラ）<br>佐屋 眸（旧姓：小島／モンゴル／デザイン／2007年度3次隊）                            | 【モンゴル、アフリカ地域】モンゴルの羊毛フェルトやアフリカ伝統の素材を使ったハンドメイド製品の企画デザイン・輸入・販売を行う。 <a href="http://daladala.jp">http://daladala.jp</a>   |
| chaokao material（チャオカオ・マテリアル）<br>高野蘭子（タイ／手芸／2003年度3次隊）                        | 【タイ】タイ山岳少数民族の伝統刺しゅうや織物を使ったオリジナル雑貨（小物、アクセサリーなど）、素材の販売や卸販売を行う。 <a href="http://chaokao.org">http://chaokao.org</a>  |
| Teebom（テェボム）<br>今井奈保子（スリランカ／村落開発普及員／1993年度2次隊）                                | 【スリランカ、インド、ペルー、ケニアなど】スリランカの紅茶をはじめ、インドやペルー、ケニアなど世界各国の食品や雑貨の輸入・販売を行う。 <a href="https://fairtrade-teebom.com">https://fairtrade-teebom.com</a>                                       |
| BUCKLE COFFEE（バックル コーヒー）<br>石山俊太郎（東ティモール／コミュニティ開発／2014年度2次隊）                  | 【東ティモール】東ティモール、ブルンジ、パナマなど世界のコーヒー豆を自家焙煎し販売する。最高品質の「スペシャルティコーヒー」と呼べる商品だけを扱う。店舗は町工場だった建物を最低限の改装にとどめた。 <a href="https://www.bucklecoffee.com">https://www.bucklecoffee.com</a>        |
| Vanilla House（バニラ・ハウス）<br>小瀬一徳（パプアニューギニア／製材／1993年度2次隊）                        | 【パプアニューギニア】パプアニューギニアで栽培されたバニラビーンズやカカオ豆などの農産物やその他加工食品の輸入・販売を行う。 <a href="http://www.vanilla-house.com">http://www.vanilla-house.com</a>  |
| 有限会社バンベン<br>坂本 毅（中華人民共和国／日本語教師／1991年度1次隊）                                     | 【中華人民共和国】中華人民共和国・内モンゴル自治区オルドスの砂漠緑化支援を目的に、同地産の岩塩や重曹などの販売を行う。現地では、植林のほか、有機肥料の生産や高付加価値農業の導入など環境と経済の好循環モデルづくりを行っている。 <a href="http://banben.jp">http://banben.jp</a>                  |
| ベレケの村<br>五十嵐大介（キルギス／家畜飼育／2009年度3次隊）<br>五十嵐早矢加（キルギス／村落開発普及員／2010年度3次隊）         | 【キルギス】千葉県南房総市の「ベレケの村」にて、キルギスで食用や薬用としてなじみの深いキンセンカを栽培。それを材料にしたオーガニックオイル、化粧品、花びらドレッシング、お茶などを生産・販売。 <a href="https://www.berekenomura.com">https://www.berekenomura.com</a>           |
| 株式会社豆乃木<br>杉山世子（ジンバブエ／ソフトボール／2000年度1次隊）                                       | 【メキシコ】メキシコのマヤ先住民が無農薬・無化学肥料で栽培する「マヤビニックコーヒー」などの輸入・販売を行う。 <a href="http://www.hagukumuhito.net">www.hagukumuhito.net</a>  |
| エシカルジュエリーブランド「maramana」<br>早水綾野（ソロモン諸島／プログラムオフィサー／2012年度1次隊）                  | 【ソロモン諸島】ソロモン諸島の村人が海辺で拾い集めた貝を材料に、現地の職人が貝細工として仕上げたものをフェアトレードで仕入れ、日本でエシカルジュエリーとして販売する。ネックレス、ピアス、ブレスレットなどがろう。 <a href="https://maramana.theshop.jp/">https://maramana.theshop.jp/</a> |
| ミトラパーブ<br>望月映子（タイ／手芸／2003年度3次隊）   | 【タイ】カラフルな手芸材料、手間暇かけて織られた草木染めのショール、練り込みという技法で作られた色とりどりの陶器、手作業で仕上げられたシルバーのアクセサリーなどを扱う「ミトラパーブ」運営。 <a href="https://mitpha.jimdofree.com">https://mitpha.jimdofree.com</a>            |
| YAMBI CONNECT LLC.（ヤンビ・コネクト）<br>浅野拳史（ルワンダ／理科教育／2015年度1次隊）                     | 【ルワンダ】ルワンダへのスタディツアーや視察ツアーなどのコーディネート、同国での日本語教室の運営などを行う。 <a href="http://yambiconnect.biz/">http://yambiconnect.biz/</a>  |

## 「世界が尊敬する日本人100」

2021年8月3日発売の『Newsweek日本版』特集「世界が尊敬する日本人100」に、元協力隊の3人が選出されました。  
 今年の同特集は、コロナ禍で困難の淵にありながら、他者のために能力を発揮する日本人などを選出。  
 協力隊出身の3人は、4カテゴリーのうち「Rest of the Best 国境を超えて世界を動かす逸材たち」に選ばれました。

もくおゆきえ  
**李尾雪絵さん**  
 (フィジー/都市計画/1987年度2次隊)  
 UNICEFレバノン事務所代表

日本の大学を卒業後、建築事務所に就職。1987年に青年海外協力隊員としてフィジー都市開発省・都市計画局に配属され、都市部の開発調査や企画、環境問題に関する調査などに携わる。国連難民高等弁務官 (UNHCR) での国連ボランティアを経て、91年から94年、米国コーネル大学地域計画学科に留学。修士号を取得後、国連食糧農業機関 (FAO) ローマ本部でのインターンを経て、ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー (JPO) として UNICEF モンゴル事務所に勤務。コソボ事務所長、モンテネグロ事務所長、タジキスタン事務所代表、ウクライナ事務所代表、キルギス共和国事務所代表を経て、2019年7月より現職。



**受賞コメント:**  
 数々の要人とともにこのような名誉をいただいたのは大変光栄です。一方で21世紀の地球は、貧困格差、不平等社会、人権侵害、環境汚染など大きな課題をまだまだたくさん抱えています。長年、国際協力に携わってきた者として、国際協力の大切さが日本の皆さんにも伝わると良いと思います。私がこのような道を歩んできた原点は、まさに青年海外協力隊の活動経験にあります。日本の次世代、若い方々が思い切って世界に羽ばたき、この世界を良い方向に変えていっていただきたいと思っています。

**受賞コメント:**  
 私だけではなく、シリア人と日本人の両メンバーによる今日を明日につなげる活動「イブラ・ワ・ハイト」が評価されたのであれば、非常に嬉しいことです。同時に、現在も継続するシリアとシリア人を取り巻く不条理な状態に関心を向けたい世界に対して非常な危機感を持っています。この選出が単に一時のイベントに終わらず、「人とその尊厳」を第一に考えるためのヒントになることを心から願っています。



やまぎ  
**山崎やよいさん**  
 (シリアSV/文化/2002年度0次隊)  
 (シリアSV/考古学(遺跡修復)/2009年度2次隊)  
 考古学者

1989年、講談社の野間アジア・アフリカ奨学金を得てシリア北部のアレッポ博物館で客員研究員として所属。以来、2011年までシリア在住。アレッポ博物館客員研究員、日本シリア共同アインダーラ遺跡修復プロジェクト現地マネージャーを経て、シニア海外ボランティアとして JICA シリア博物館改革プロジェクトや JICA シリア遺跡保存関係プロジェクトに従事。JICA ヨルダン博物館プロジェクト専門家、アレッポ大学文学部考古学専攻科講師などを歴任。現在、アラビア語通訳・翻訳やテレビ取材のコーディネーターなどとして活躍。13年、シリア紛争で生活基盤を失った女性たちの収入向上支援プロジェクト「イブラ・ワ・ハイト」を発足。

**受賞コメント:**  
 子どもの頃に見たベトナム戦争の写真は私に大きな衝撃を与えました。何かできることはないかという思いを忘れることができず国際協力の道に転向しました。JICA ボランティアとしてパラグアイ(家政隊員)に派遣され、現地の方々と協働することから、人々の潜在能力、エンパワメントの可能性をたくさん教えていただきました。NPOの活動では国内外の仲間たちにたくさん支えていただきました。このたび Newsweek に選ばれたことは大変光栄なことであり、共に歩んでくれた仲間たちとともに選ばれたと思っています。これからも共に前に進んでいきましょう! 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ふじかけようこ  
**藤掛洋子さん**  
 (パラグアイ/家政/1992年度2次隊)  
 JICA 技術顧問: 家政・生活改善、栄養士  
 横浜国立大学都市科学部長・大学院教授

東京家政学院大学・大学院准教授を経て、現職。博士(学術、PhD in Gender and Development Studies)。専門分野は文化人類学、開発人類学、ジェンダーと開発。パラグアイ農村部やスラムにおいて、子どもたちの教育、保健・衛生向上を目指して活動する認定NPO法人「ミタイ・ミタクニヤ子ども基金」理事長。JICA 理事長表彰、パラグアイ上院議員・下院議員表彰などパラグアイにおける国際協力活動に対する表彰多数。



国際協力事業を通じて途上国の人材育成や社会発展への貢献を認められ、  
 2021年中に表彰を受けた  
 JICA 海外協力隊OVを紹介しします。

# Award Winner in 2021

— 表彰者 —

全国各地の多様な分野で帰国隊員が活躍しています。2021年に名誉ある賞を受賞したお二人を紹介します。

### 第9回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール 会頭賞



あさいひろあき  
**浅井広大さん**  
 (ネパール/村落開発普及員/2012年度3次隊)

2020年7月、浅井広大さんが「第9回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール」の会頭賞を受賞した。同コンクールは、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わる養蚕農家や団体などに贈られる賞。浅井さんは東京都出身。京都大学在学中に農業に関心をもち、卒業後に青年海外協力隊員としてネパールでキノコ栽培の普及に携わる。技術補完研修で群馬県富岡市や甘楽町の農家の指導を受けた縁で、帰国後の1年間、NPO法人自然塾寺子屋に籍を置いた。1次産業に携わる道を探るなか、「養蚕の後継者がいない」と聞き、16年に同町の地域おこし協力隊として養蚕を始めた。1年目は町が手配した空き家に住み小規模で蚕を飼い始め、2年目に養蚕農家だった住宅に移って作業環境を改善。地域おこし協力隊員の任期を終えた3年目は、富岡市が養蚕業の継承のためリフォームした住宅で本格始動。先輩農家に助言を受けながら、技術の向上と繭の生産量増加につなげ、春から夏にかけてJA甘楽富岡を通して繭を出荷。冬場は下仁田ネギと長ネギを作っている。



**受賞コメント:**  
 ネパールで出会った農家さんと群馬県甘楽町の農家さんの姿に憧れて、養蚕農家になろうと決心しました。今まで支えていただいたたくさんの方々に感謝します。日本とネパールの養蚕振興のためにこれからも精進します。

### 2020年度 ふるさとづくり大賞

総務大臣表彰(団体表彰)



「サワディー佐賀」  
 やまじけんぞう  
**山路健造さん**  
 (フィリピン/コミュニティ開発/2014年度2次隊)

2021年1月、山路健造さんが代表を務める市民活動団体「サワディー佐賀」が、地域活性化に貢献した個人や団体に贈られる、総務省「ふるさとづくり大賞」の総務大臣表彰(団体表彰)に選ばれた。山路さんは大学を卒業後、西日本新聞の記者を経て、協力隊に参加。コミュニティ開発隊員として、フィリピン南ビコールの農業事務所に所属し、有機ごみの堆肥化や有機農業などを促進した。帰国後、佐賀県と世界を結ぶ国際交流活動に尽力し、18年にタイ人のネットワークづくりやタイ文化の発信を目的に「サワディー佐賀」を設立。タイ文化の発信、災害時のタイ語による情報発信、佐賀県を訪れるタイ人観光客へのおもてなしなどが評価され、受賞につながった。



2020年10月、佐賀県内で開催された「タイフェスティバル」会場での山路さんとメンバー

**受賞コメント:**  
 青年海外協力隊員としてフィリピンで“外国人”を経験したからこそ、日本で暮らす外国人住民が孤立せず、安心できればと活動を始めました。その活動が評価され、本当にありがたいと思います。今後、さらに多くの外国人住民が活躍できる活動を続けていければと思っています。

JICA海外協力隊経験者による著書は、派遣中の体験や、その経験を生かしたその後の人生が詰まった貴重な情報源になっています。2020年～21年にかけて発行された4冊を紹介します。

# JOCV BOOKS

## 協力隊経験者の著書

### 面接・プレゼン対策に使える！ 日本語のプロが伝授する「伝え方」

自分の思いや考えを聞き手にきちんと伝えるには「伝え方」が重要です。言葉の専門家である日本語教師の高嶋幸太さんとフリーアナウンサーの木村久美さんが、聞き手の心をつかむスピーチ・プレゼンテーションの極意を伝授します。学生・会社員・留学生の3人のストーリー形式で、例を自分にあてはめやすく、話し合いの場などで早速生かしたくなる本です。

<ビジネス・就活で生きる>  
「伝え方」のベストプラクティス

著者/高嶋幸太、木村久美

発行:大修館書店 定価:1,650円(本体1,500円+税)

たかしま こうた(モンゴル/日本語教師/2009年度4次隊・埼玉県出身) ●日本語教師、日本語コミュニケーションアドバイザー。立教大学日本語教育センター兼任講師。東京学芸大学日本語教育専攻卒、英国グリニッジ大学大学院MA Management of Language Learning修了。青年海外協力隊の派遣国であるモンゴルと、留学先のイギリスで日本語教育に携わる。

### 変わりゆく時代における ソーシャルワーカーの役割とは

ソーシャルワーカー(社会福祉士、精神保健福祉士)として従事経験を有する著者が、国際開発や国際協力の現場でソーシャルワーカーに求められる知識や技術、価値を紹介。多文化共生についての章のほか、多角的な視点を養えるよう海外でのソーシャルワーク実践に関わりのある3名のコラムも掲載しています。国際福祉論などの講義で使われる教材向けになっていますが、手に取りやすい厚さで知識の補完に役立つ1冊です。

国際開発ソーシャルワーク入門

著者/東田全央

発行:大阪公立大学共同出版会 定価:880円(本体800円+税)

ひがしだ まさてる(スリランカ/ソーシャルワーカー/2012年度3次隊・兵庫県出身) ●青森県立保健大学健康科学部社会福祉学科助教。博士(人間科学、大阪大学)、社会福祉士・精神保健福祉士。大阪府立大学大学院/大阪大学大学院修了。シェフィールド大学国際開発・公衆衛生学修士(MPH)課程修了。



### 環境教育と地域づくりの実践例、 国際協力活動の進め方がわかる

ケニアで環境教育と地域づくりに情熱を注いだ著者が、活動を振り返り、次世代へとつなげる一冊です。任地の様子や人間関係などの日常生活、海外ボランティアの意義や課題、隊員としてどう活動を進めるべきかが丁寧に記されています。2010年からの2年間の活動をもとにしていますが、そのノウハウは今後、国際協力の道に進む初心者にとっても参考になるはずです。

野生生物との共生を目指して  
ケニアの陽光

ポストコロナの海外ボランティア

著者/中川宏治

発行:子どもの未来社 定価:1,980円(本体1,800円+税)

なかがわ こうじ(ケニア/環境教育/2008年度1次隊・大阪府出身) ●京都大学卒。環境科学博士。滋賀県入庁後、森林・林業政策を担当し、琵琶湖環境科学研究センターで次世代の森林育成に関する研究業務に携わる。

### 蚊を愛し、研究人生をささげる著者による ユニークな「蚊」の入門書

身近な存在でありながら、感染症の媒介役にもなる「蚊」について、生物学、対策、歴史などを研究者、防虫用品メーカー、公衆衛生の専門家らがわかりやすく解説します。蚊から身を守るすべがわかるだけでなく、実はおもしろい昆虫であることにも気づかされます。捕まえ方から飼育方法に解剖方法、蚊にまつわるアート作品まで盛りだくさんで、文化祭のような一冊です。

きつと誰かに教えたいくなる  
蚊学入門

知って遊んで闘って

編著者/一盛和世

発行:緑書房 定価:1,980円(本体1,800円+税)

いちもり かづよ(サモア/公衆衛生/1976年度3次隊・東京都出身) ●長崎大学熱帯医学研究所客員教授、James Cook University プロフェッショナルリサーチフェロー。1992～2013年に世界保健機関(WHO)勤務。

# JICA INFORMATION

## JICA国内拠点

全国15カ所にあるJICA国内拠点。開発途上国と日本の各地域を結ぶ懸け橋として、地域の特色を生かした国際協力を市民やNGO、自治体、民間企業などと連携して推進しています。

各拠点では、JICA海外協力隊経験者を対象とする就職・キャリアアップ・スキルアップのためのセミナーや、国際協力に関連する各種セミナー・写真展などを開催しており、国際協力関連の資料なども閲覧できます。また、全国3カ所にあるJICAの「地球ひろば」では、世界が直面するさまざまな課題や、途上国と私たちのつながりを体感できます。ぜひご利用ください。

※各拠点の所在地・連絡先などは下記ウェブサイトをご覧ください。  
JICA「国内のJICA拠点」

▶ <https://www.jica.go.jp/about/structure/domestic/>

### 【国内拠点】

| 名称           | 所轄地域                         |
|--------------|------------------------------|
| ①JICA北海道(札幌) | 北海道(道央・道北・道南)                |
| ②JICA北海道(帯広) | 北海道(道東)                      |
| ③JICA東北      | 青森県、岩手県、宮城県、福島県、秋田県、山形県      |
| ④JICA二本松     | 福島県                          |
| ⑤JICA筑波      | 茨城県、栃木県                      |
| ⑥JICA東京      | 群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、長野県      |
| ⑦JICA横浜      | 神奈川県、山梨県                     |
| ⑧JICA駒ヶ根     | 長野県                          |
| ⑨JICA北陸      | 富山県、石川県、福井県                  |
| ⑩JICA中部      | 静岡県、岐阜県、愛知県、三重県              |
| ⑪JICA関西      | 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県     |
| ⑫JICA四国      | 徳島県、香川県、愛媛県、高知県              |
| ⑬JICA中国      | 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県          |
| ⑭JICA九州      | 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県 |
| ⑮JICA沖縄      | 沖縄県                          |

### 【地球ひろば】

| 名称           | 所在地    |
|--------------|--------|
| ①ほっかいどう地球ひろば | 北海道札幌市 |
| ②JICA地球ひろば   | 東京都新宿区 |
| ③なごや地球ひろば    | 愛知県名古屋 |

## JICA海外協力隊OB・OGの皆様へのお願い

～JICA青年海外協力隊事務局より～

### 連絡先変更・情報提供のお願い

青年海外協力隊事務局では、帰国されたJICA海外協力隊の皆様との関係を保ち、情報を共有したり、ご意見をお聞きしたりすることが事業改善を進めるうえで重要だと考えています。そのため、住所変更などが生じた場合は、「住所変更届・進路現況連絡票」(下記ウェブサイトよりダウンロードが可能)のご提出をお願いしています。年に1度、OB・OG向け『クロスロード』をお送りする際にも必要な情報になりますので、ご協力よろしくお願ひします。また、皆様の周りで連絡先を変更された方がおられましたら、「住所変更届・進路現況連絡票」のご提出をお伝え願ひします。なお、メールや電話、郵便などで、事業の改善や見直しに関するアンケートへのご協力や、さまざまな分野で活躍されているJICA海外協力隊OB・OGの方のご紹介をお願いすることもあると思ひますので、その際は、ご協力をよろしくお願ひいたします。

#### ■住所変更届・進路現況連絡票

<https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/procedures/documents>

#### ■各種届出の提出先／問い合わせ先

jtvtc-sinrosien1@jica.go.jp (JICA青年海外協力隊事務局 人材育成課)

### 2022年度応募勸奨へのご協力のお願い

より多くの方にJICAボランティア事業を知っていただくために、皆様の力をお貸しください！ お勤め先、ご友人のお店、町内会掲示板などへのポスターの掲示にご協力いただける方は、最寄りの国内拠点にご連絡ください。

#### ■送付物：

2022年度募集広報用ポスター  
(B3サイズ=364mm×515mm)

#### ■送付時期：

2022年4月以降(折り畳んだ状態でお送りします)

#### ■申し込み・問い合わせ先：

左記の【国内拠点】より最寄りの拠点にご連絡ください。

#### ■ご連絡いただく内容

件名：2022年度募集ポスター申し込み

本文：①お名前、隊次、派遣国、職種

②ご送付先(日本国内のみ)

③ご希望枚数(お1人3枚まで)

※送付枚数が上限に達した時点で、受け付けを締め切らせていただくこととなりますのでご了承ください。



募集ポスター例(デザインはお送りするポスターと異なります)

## クロスロード

発行日 2021年12月

編集・発行：独立行政法人国際協力機構  
青年海外協力隊事務局  
〒100-0004東京都千代田区大手町1-4-1竹橋合同ビル

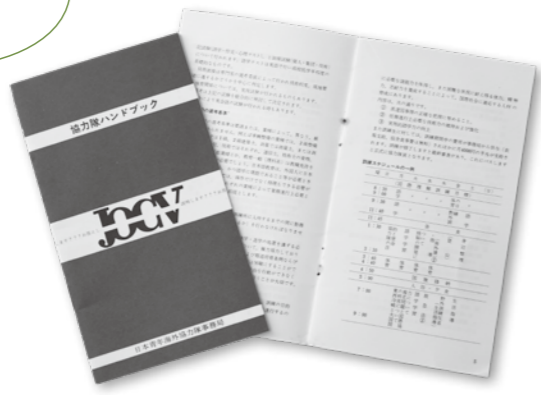
制作協力：一般社団法人協力隊を育てる会「クロスロード」編集室  
〒101-0052東京都千代田区神田小川町3-28-7昇龍館ビル2階  
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン：(株)AND  
印刷・製本：弘報印刷(株) 校正：佐藤智也

# 懐かし！ お宝隊員 グッズ

協力隊員の証しともいえるメモリアルグッズの数々や記念品は、時代とともに移り変わり、中にはレアなお宝も？  
さまざまな協力隊グッズをご紹介しますながら、歴史を振り返ります。

## 1965年～1970年代？

**協力隊ハンドブック**  
隊員の活動内容を応募者向けに詳しく解説したパスポートサイズの小冊子。1週間の訓練スケジュールの例には、当時の社会情勢を反映して「東西冷戦と大国の利害について」という国際理解の時間があります。



## 1965年～1970年代？

**温度計**  
重厚感たっぷりな見た目ですが、盤面は直径約7cmとコンパクトなサイズ。豪華なので帰国記念品として用意されたものでは？と推測。



今でも  
使えます！

## 1971年頃～

**事業概要、願書、訓練計画**  
記入した痕跡すらない白紙の願書。募集要項に願書締切日は1972年2月とあります。元の持ち主はどうしたのでしょうか……ドラマチックですね。



レアな  
白紙の願書

## 1965年

**たばこ「Peace」パッケージ**  
第1次隊員派遣の記念品。四方に広がる協力隊のロゴは、著名なデザイナーの八尾武郎さんが若い日に「協力隊をデザインで応援したい」と考案したものの。

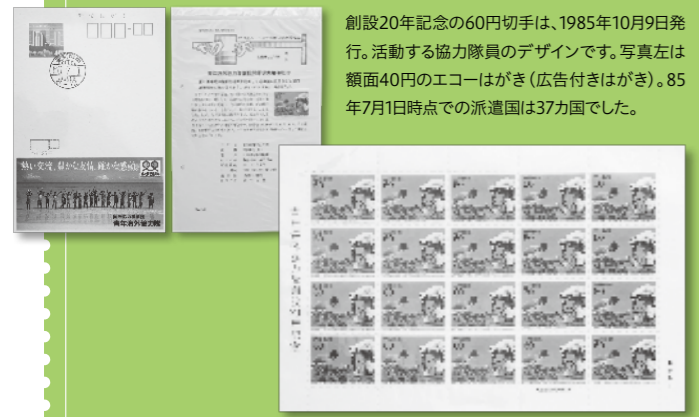


その名もピース  
(平和)

## 記念切手・周年グッズ

### 20周年

創設20年記念の60円切手は、1985年10月9日発行。活動する協力隊員のデザインです。写真左は額面40円のエコーはがき(広告付きはがき)。85年7月1日時点での派遣国は37カ国でした。



## 1994年頃？

**ジャージ**  
隊員OVIに見せると、訓練の思い出がよみがえったのか「懐かしい〜！」と声が上がったジャージ。デザインは年代によってたびたび変わっています。



第2制服と  
呼ばれて  
いました！

控えめな  
ねずみ色

## 1965年～1970年代？

**ジャケット**  
今では使われなくなってしまったジャケット。1965年から9年間は日本青年海外協力隊という名称が使われており、その時代のもの。



「クロスロード」  
の前身です

## 1967年・1970年

**広報誌「若い力」**  
協力隊事業とほぼ同時期に誕生した広報誌「若い力」。1978年9月号から「クロスロード」と改題され現在に至ります。表紙がカラーでページ数も多く、今より豪華なつくり！



### 30周年

創設30年記念の80円切手。1995年4月20日発行。バングラデシュで協力隊員が現地の住民に識字教育をしている姿を描いています。



### 40周年

こちらは切手ではなくステッカー。青年海外協力隊事業40周年のロゴ入り。



### 50周年

創設50年記念の82円切手。2015年4月20日発行。協力隊が派遣されている地域の人々と、現地での隊員の活動風景をデザイン。



「大事なものは形に残しておかなくては」と強く思いました。隊員グッズを残しておき、いつかコレクションとしていろいろな人に見てもらいたいと思ったのです。今回紹介するのは、フリマサイトなどでコツコツと集めたもの「一部です」。

協力隊時代は人生でいちばんやりたことができた、充実した日々だったと振り返る大塚さん。「隊員として輝いていた日を思い出せるというか(笑)、今もグッズを見ると癒やされ、励みになるんです」。

今狙っているのは90年代後期の緑色の制服だそう。「探して探しているのですが見つけれなくて……」。まだまだコレクションは続きます。

大塚さんが初めて隊員グッズと出会ったのは、切手コレクターだった祖父の形見で20周年・30周年の記念切手を手にしたことでした。「まだ学生だったので協力隊についてよくわかってはいませんでした」と大塚さん。

その後、敏腕営業マン時代を経て協力隊員に。「派遣国では帰国時に制服などを記念にほしいと頼まれてそのまま置いてくる隊員が多いのですが、みんながそうすると国内にグッズが残らないのでは？」と派遣中に思ったんです。そこで、派遣国に向かう隊員に「制服も一緒に帰国させてほしい」と伝え始めたのが2011年頃でした。

グッズ収集が本格的になったきっかけは同年の東日本大震災。「震災後、

散逸しがちなグッズを残しておきたい！



世界にただ一人!?  
協力隊グッズコレクターが語る隊員グッズの魅力

おつかよひさ  
大塚善久さん

マラウイ/村落開発普及員/  
2006年度3次隊・東京都出身

帰国後、JICA国際協力推進員(広島県)としての活動経験がある。今号18ページに掲載の日本も元気にする青年海外協力隊OB会のメンバー。



やまだまさき  
山田将希さん

エクアドル/理学療法士/  
2018年度1次隊・  
山口県出身

## エクアドル選手団の 一員として

専門学校を卒業後、理学療法士として大阪の総合病院で働いていた山田さん。幼い頃からスポーツが好きで、社会人バスケットボールチームに所属していたが、試合で膝を損傷し、1年間のリハビリ生活を送った。身をもって手術と理学療法を体験したのを機に、スポーツ整形病院に転職した。

スポーツトレーナーの道を歩み始めた頃、協力隊として活動していた友人に会うため、東南アジアを訪問。田舎町の診療所で、日本とは異なる医療事情を垣間見た。「設備やリハビリの知識・技術が不十分で、一人ひとりに合ったケアがされていない。世界でやれることがたくさんあると気づきました」。異国の地で奮闘する仲間の姿に感銘を受け、山田さんは協力隊に応募した。

2018年、理学療法士としてエクアドルに派遣され、首都キトから車で2時間ほど離れた街のクリニックで、高齢者やスポーツ選手などの診療と技術指導を開始した。また、東京2020オリンピック・パラリンピックに関わりた一心で、エクアドルのオリパラ連盟に志願。週末や平日の空き時間を利用して、連盟のあるキトやグアヤキルなどに通い、選手のリハビ

リに携わった。「日本好きの関係者となり、リハビリ施設で選手のケアを任せられるようになりました。選手団の日本語通訳の役割も期待されました」。しかし2020年3月、新型コロナウイルス感染症の影響で、山田さんは日本へ帰国。再赴任を待っているうちに任期が終わってしまっただけで、連盟や選手とオンラインでやりとりを続けるなか、オリパラは21年に延期。渡航できるようになった21年4月、貯めた資金で再びエクアドルへ渡った。

「戻ってくれてありがとう」。大歓迎を受けた山田さんは、それから毎日選手のケアに専念し予選会などにも帯同。そして7月、エクアドル選手団の一員として、47人の選手やコーチとともにオリンピックの舞台へと飛んだ。

成田空港に到着後、卓球選手のラケットが届かなかったり、選手の急な診療でクリニックへ同行したりなど、対応に追われた。「理学療法士として、日本人として、あらゆるサポート役に徹しました」。試合直前、足の痛みを訴えた選手がいたが、山田さんが日本の医療機関と連携して、最大限力を発揮できるようサポート。結果、オリパラ合わせて6つのメダルを獲得した。

エクアドル史上最も良い成績となった。選手団の一人として選手を支えた経験は、山田さんを大きく成長させた。理学療法士として心身に障害のある選手のケアに携わったことも人生の宝だ。山田さんは引き続きエクアドルの選手をサポートするとともに、海外を目指すトレーナーや理学療法士への情報発信やアドバイスをを行っている。

## スポーツがひらく未来

— 選手とのキズナ —



貧困や紛争、差別、そして新型コロナウイルス感染症などさまざまな苦難と闘いながら練習に励んだ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手たち。彼らの戦いを見守ってきたJICA海外協力隊のストーリー。



ふじたかずみ  
藤田一臣さん

シリア/バドミントン/  
2009年度3次隊・  
埼玉県出身

## 教え子が 難民選手団の代表に

2021年夏、関西で塾を運営する藤田さんに、「MAHMOUD」と書かれたユニフォームが届いた。送り主は、東京2020オリンピックに出場したシリア出身のアラム・マフムード選手。難民選手団の1人として、バドミントン男子シングルス予選で戦ったアラムさんは今、24歳。11年前、協力隊としてシリアに赴任し、ナシヨナルジュニアチームでバドミントンを教えていた藤田さんの元教え子だ。「13歳だったアラムは、ほかの選手より負荷の高いメニューで練習していました」と藤田さん。10年秋には、日本で開催されたANAアジアユース大会にも参加した。世界の實力を見せつけられたが、アラムさんは帰国後、より真剣に練習に励むようになった。

しかし、11年4月、治安悪化により藤田さんは任期途中で帰国することに



なかにえり  
中谷恵梨さん

ラオス/水泳/  
2019年度2次隊・  
大阪府出身

## 成長につながるスポーツの力

7月30日、日本時間19時。東京・辰巳の森浜公園内に新設された世界最高水準の水泳場。競泳女子50メートル自由形の予選で、ラオスのシリ・バドチャラン選手は少し緊張した面持ちで飛び込み台に立った。はるかラオスからスクリーンを見守るのは、中谷さん。

中谷さんは2019年12月、教育スポーツ省ラオス水泳連盟に派遣され、水泳の普及とオリンピック選手の強化にあたった。「連盟職員は2人だけ。屋外プールで天候に左右され、時間的制約も多いなかでのスタートでした」。オリンピック出場が決まっていた水泳選手の1人がシリ選手。「明るい性格でも話し合える関係になりましたが、オリンピックは厳しい世界。大会への参加を『海外旅行感覚』に捉えていた18歳の女の子を前に、どう指導していくか悩んだ時期もありました」。中谷さんはやる気を引き出すことから始め、長距離ではなく、休憩を挟みな



レスリングの試合前後に選手の足の状態を確認する山田さん。一人ひとりに合ったケアやリハビリに尽力

が短い距離を複数回泳ぐ練習法を取り入れた。また、遅刻や甘えが見えるときは、一方的に叱るのではなく、時間を守る大切さや練習に向き合う姿勢などを丁寧に伝えた。

しかし、練習が軌道に乗り始めた20年3月、新型コロナウイルスの影響で帰国を余儀なくされた。約半年間、リモートで指導を続けた中谷さん。「途中、決めたとおりの練習ができていないとわかり、もどかしさを感じました」と振り返るが、12月、満を持してラオスに戻ってからは、再会の喜びが絆を深めた。「そこからは短期集中。オリンピックに向けて一気に突き進みました」。

大会当日、中谷さんはラオスで水泳連盟所属の選手たちと一緒に、シリ選手をスクリーンで見守った。試合の直前、「早く泳げなかったらどうしよう」と電話があり、「あなたならやれる」と励ました。結果は自己ベスト。後日、「エリが来てくれたから成長で



オリンピック出場のリリ選手を応援するラオスの子どもたち

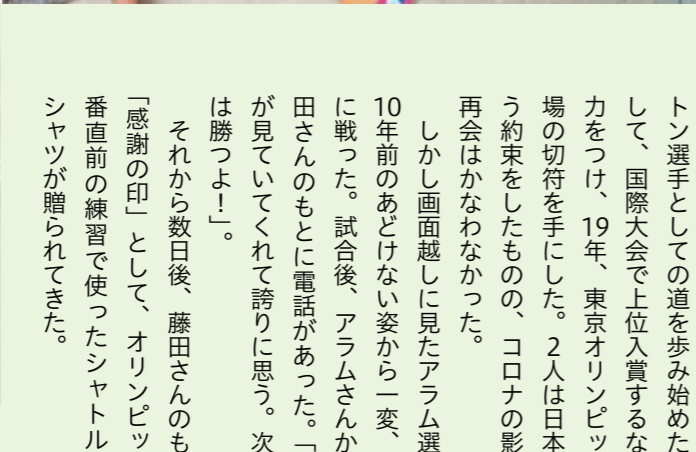
きた」と嬉しい言葉をもらった。

「選手の成長を見て、スポーツの力を実感した。今までやってきたことは間違っていないかと思えた」という中谷さん。シリ選手が世界の舞台で自己ベストを出したことで、ほかの選手も積極的に練習に励むようになった。次は22年に福岡で開催予定の世界水泳選手権を視野に指導を続けている。

急な別れを惜しみ、アラムさんは前夜にひっそり会いにきてくれた。その後、反体制デモと治安当局の衝突は内戦に発展。今も外国人は入れないままだ。藤田さんはSNSでやりとりを続けながら、検閲などの影響もあり状況がわからず、心配した時期もあった。その間、アラムさんはオランダでバドミントン選手としての道を歩み始めた。そして、国際大会で上位入賞するなど実力をつけ、19年、東京オリンピック出場の内定を手にした。2人は日本で会う約束をしたものの、コロナの影響で再会はかなわなかった。

しかし画面越しに見たアラム選手は、10年前のあの姿から一変、立派に戦った。試合後、アラムさんから藤田さんのもとに電話があった。「カズが見ていてくれて誇りに思う。次こそは勝つよ!」。

それから数日後、藤田さんのもとに「感謝の印」として、オリンピック本番直前の練習で使ったシャトルとTシャツが贈られてきた。



11年前のアラムさん(左)。「甘えん坊だけど根はまじめ。アラムはチームのなかで実力があつた」と藤田さん(右)



ラオス

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の競泳女子50メートル自由形の予選に出場したラオスのシリ・パドチャラン選手と、指導にあたった協力隊の中谷恵梨さん。選手の気持ちに寄り添った練習を続け、シリ選手は自己ベストを更新した

# スポーツが ひらく未来

—選手とのキズナー—



ともにスポーツの  
頂点に挑み、強まる  
派遣国とのキズナ



エクアドル

エクアドル代表選手団の一員として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加した山田将希さん。理学療法士兼日本語通訳として、47人の選手のケアに尽力し、エクアドル史上最も多くのメダル獲得に貢献した



シリア

2010年に日本で開催されたANAアジアユースで戦うシリアのアラム・マフムード選手（奥のコート後衛）と見守る藤田一臣さん（右奥）。藤田さんは当時、シリアチームのコーチとして来日した



見やす・読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

